

者を教ふる際に然りとす。五千、一千、二千の銀を與へられし僕の比論話を語れとは長き答を要するが故に悪質たるを免れず。多くの場合に於て質問は精確なる答を要求すべし。

(五) 暗示

- 其一、全く生徒が期待せざる或るものを質問中に入れよ。
- 其二、可否に係らず熱心なる答を要求せよ。
- 其三、一定の順番に質問すべからず。
- 其四、汝の事業に汝を導びく様に凡ての誤れる答を利用せよ。
- 其五、熱心と智識とを質問中に入れよ。
- 其六、心の器械を働き出さしむる爲めに單純なる質問をもて始めよ。
- 其七、生徒に質問を爲さしむる様に奨励せよ。博士ストーカー曰くソクラテスは質問を出して其弟子に答へしめぬ。耶穌は弟子を勵まして質問せしめて其に答へたりきと。

黑板練習

注意して爲すべきもの	一、修辭學的	用途	一、感興
	二、省略的		二、記助
	三、然否		三、生智
爲すべきもの	一、明確的		四、生良
	二、建設的		五、教年
	三、創始的		試前
	四、暗示的	爲すべからざるもの	一、愚捕獲的
	五、靈的		二、長き答

試問

- 1、教授法に於て二區別せられたる方法を問ふ。
- 2、注意して爲すべき質問の三種類を問ふ。
- 3、爲すべき質問の五種類を問ふ。
- 4、質問の五用途を問ふ。
- 5、爲すべからざる質問の三種類を問ふ。
- 6、博士ストーカーは基督とソクラテスとの質問を比較して何といふや？
- 7、見付かりたるまゝの多くの質問を書き出して後之を類別せよ。

## 第四十一章 説明

一、説明(イラストレーション)なる言はラテンの「照らす」といふ意義の言語より来る。即ち説明とは或る問題を生徒の既に知れる或るものと比較して其を照らすとなり。二、説明は具體的より抽象的に進まざるべからず。てふ教授の法則を基礎とす。

### (一) 説明の種類

其一、實物的：實物的説明とは實物、標本、繪畫、外國の美術品等によりて説明する事なり。

其二、口語的：實物説明か屢々用ひらるゝとも、又口語的説明は更に大なり。善き説明の特性。

其一、説明すべし。教授の結果なるべく、接合的の物たるべからず。説明は或る思想を明かにする爲めにして、説明其ものを語るが爲めにあらず。大工あり或裝飾物を用ふるを勧められしとき答へて曰く「それは建築の第一義に反せり。吾人は決して裝飾を構造すべからず、製飾的構造を造るべし」と説明を用ふる

も然すべし。

其二、詳細に過ぎざるもの。詳細に過ぎても煩らはしくして心を混亂せしめ説明すべき思想に固定するを妨ぐ。

其三、理會し得ざるべきもの。説明は生徒の智識と經驗の範圍中に於て爲さるべきものなり。未知のものに未知のものを比較するは、盲者に盲者を導かしむるなり。ダインの何者なるかを知らざるものにダインの力量と云へばとて何の効あらんやと教授グレゴリーの云へるも宜なり。

### (三) 説明の用途

其一、注意を誘ふ：物語の響を聞きて、兒童は捕へられ、且保たれ、或人は心的彷彿より歸り来る。

其二、記憶を助く：多くの説教及び學課は巧妙なる説明の力によりて想起され得べし。抽象的の話が留まるを否むときに、繪畫と實物は其を承諾す。

其三、了解を助く：耶蘇が我等をして此世にありて他人を助くべきことを教へんとし給ひし時、善きサマリヤ人の説明を用ひ給へり。真理の明確なる智

識を興ふる説明の價値は實に量り知るべからず。

其四、生活の鏡：放蕩息子<sup>はたがた</sup>の話は多くの我儘なる子供の生活の鏡となり、我にたち歸らせ、天父<sup>てんふ</sup>の下にたち歸らせたり、ミス、アンナ、ハローが嘗つて初等科生徒にある學課を教授せし時、學課を生徒に近けんが爲め、姉妹に靴をなげし小兒の話<sup>こゝろ</sup>をなせしが、生徒中の一人の小供は家に歸つてミス、ハローが姉妹に靴を投げし事を叱りしと母に語りぬ、ミス、ハローは勿論生徒中にかゝる者ありとは知らざりしされど其話が其小供の生活を鏡に寫せしなり、而して其は小供に取りては適當の事なりしなり、説明の此の用途は一般に良心を覺醒する<sup>かくせい</sup>ためと云はる、放蕩息子の話によりて家に歸りし青年靴の話に善く適する經驗を持ちし子供は良心を覺醒せられたるなり。

(四) 如何にして説明を見出し得べきか。

其一、觀察により：説明法の達人は多く旅行を爲す人にあらず、旅行中に多く觀察する人なり、觀察の習慣を養成せよ。

其二、人の話により：人が如何に説明するかを注意せよ、良き説明を聞きし

時は其を据えおきて研究せよ、汝の言葉を衣せよ、是を用ひよ。

其三、讀書により：説明の書籍中、此處には五を舉げん(い)聖書、此目的の爲めには最も材料豊富なるものなり(ろ)歴史傳記、是等は事實に基き、事實生活の衣を着け居るを以て、特殊の價値を有す(は)小説、或る有力なる説明は小説より取るを得べし(に)説明を集めたる書、此種のものには有用なれど、使用に大なる注意を要す(は)學課註釋、此種ものは暗示的にして又實用的なり。

(五) 説明を用ふる上の注意。

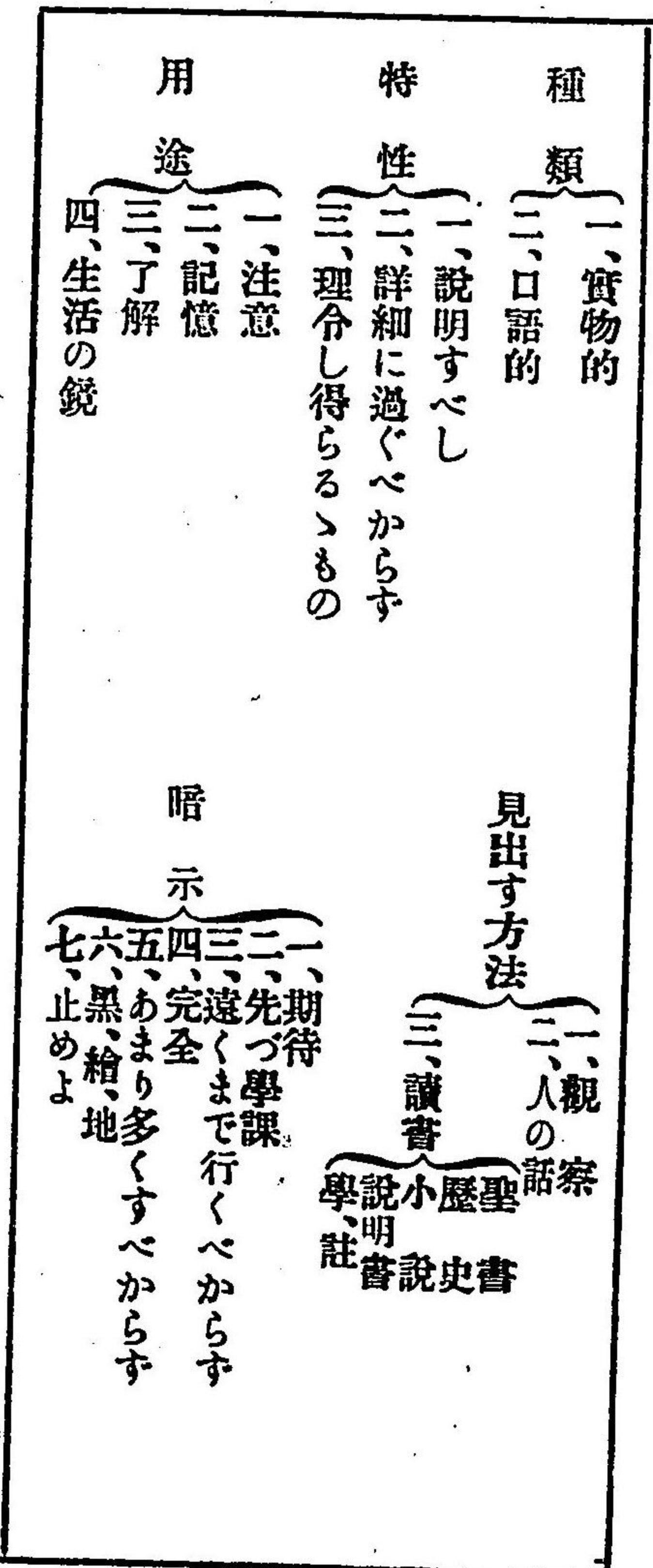
其一、説明中には生徒の期待せる或る物を混合すべし。

其二、注意して教へんとする問題を明確に了解せよ、先づ學課を學び、説明を後にせよ。

其三、説明を余り極端まで爲すべからず、如何なる譬喩も完全なるものなし  
其四、始、中間、終を具備したる完全なる物語を爲すべし、然らずんば生徒は汝が教へんとする思想よりも物語の他の部分に注意するやも知れず。  
其五、多くの説明を用ふべからず、或る一ツの點を強く言はんが爲めに二つ

の説明を用ゆる時は、二つを中和して力を弱むるに至るべし。  
 其六、黒板、繪畫、地圖を自由に使用せよ。  
 其七、目的迄に達したる時に止めよ。

黒板練習



試問

- 1、説明(イラストレート)なる言語の意義を問ふ。
- 2、説明の基礎とする教授の法則を問ふ。
- 3、説明の二種類を挙げ、且定義せよ。
- 4、善き説明の三特性をあげよ。
- 5、説明の四用途をあげよ。
- 6、説明を見出し得べき方法をあげよ。
- 7、説明使用上の七注意を語れ。

第四十二章 教師と其事業に就いての復習

練習問題に就いて復習すべし。最後の試験には練習問題を全部使用せよ。過たずして答へ得る人々は立派に及第し得るや必せり。

第九篇 生徒に關する八學課

第四十三章 兒童の性質

- 第四十四章 幼稚科と其設備
- 第四十五章 幼等科と其設備
- 第四十六章 少年科と其設備
- 第四十七章 中等科と其設備
- 第四十八章 青年科と其設備
- 第四十九章 成人科と其設備
- 第五十章 圖表研究

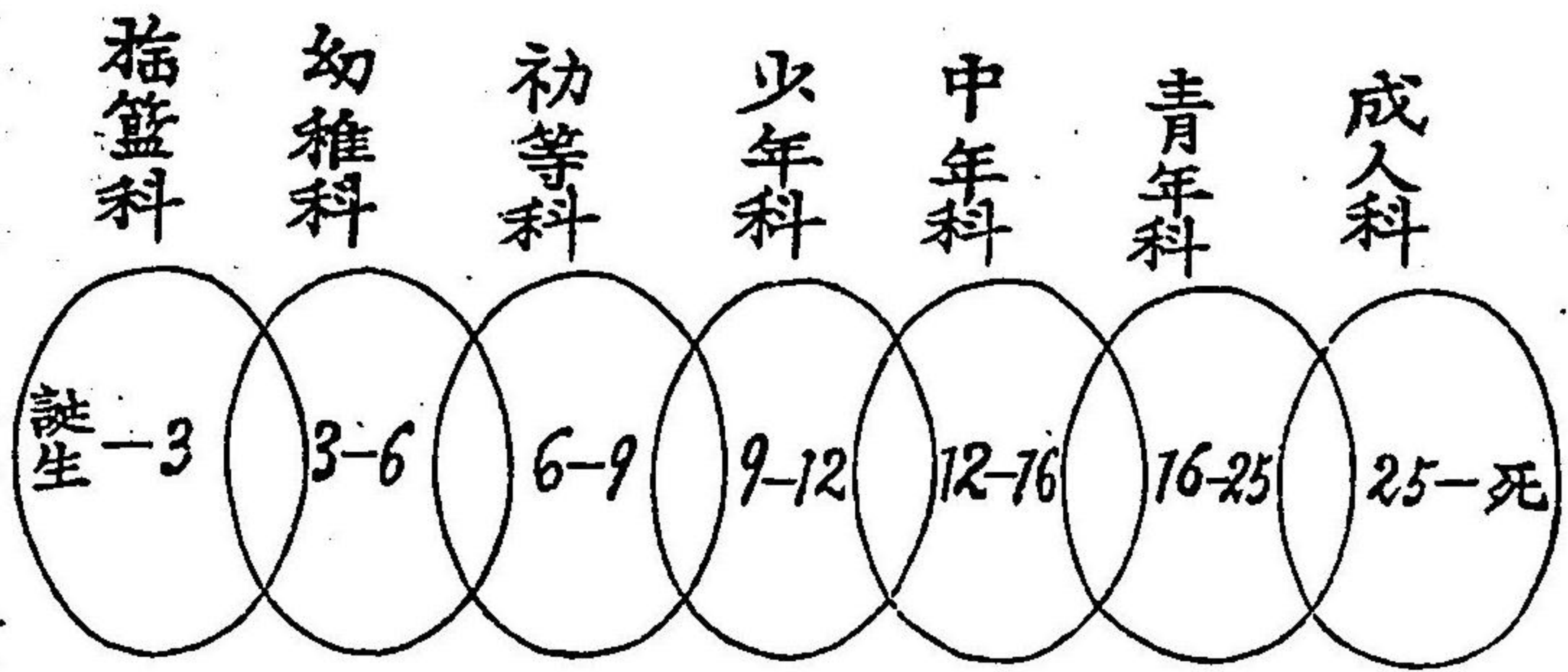
日曜學校教師の目的は性格を造るにあり。聖書の智識を授くるは其目的を遂ぐる一手段のみ。而して其事業は生徒が知れる所によらず、生徒の爲す所によりて量るべきものなり。教師は生徒が發表する所によりて、自己の興へし印象を判斷すべきなり。生徒をして適當なる發表をなさしめ、且性格を作らしめんには教師は聖書

及び教授法を完全に知るに止らず、生徒の性質を知るを要す。教師は女子と文法とを知るべく、男子と聖書とを知るべく、又人と方法とを知るべきなり。

人生には七ツ内外の異なる時代ありて、其特質嗜好等に多少の相違を存す。是等の變化は直ちに來るものにあらざるは云ふ迄もなけれど、嬰兒より成人に至るまで一年々々時代々に發育するに従ひ、次第々々に來るものなり。日曜學校界に於ては此時代を名づけて、搖籃科、幼稚科、初等科、少年科、中年科、青年科、及成人科といふ年齢によりて別てば、自生誕至三歳、自三歳至六歳、自六歳至九歳、自九歳至十二歳、自十二歳至十六歳、自十六歳至二十五歳、自二十歳至死の七ツなり。

一、兒童性質研究の方法：兒童研究に四の方法あり。

(一) 兒童を動物の如くに扱ふ：即ち兒童の外部的状态を検査し、總の動作を注意するとなり。吾人は彼が仕事を爲しつゝあるときは遊びつゝあるときに注意するを得べく、又彼の周圍を變更して、是によりて生ずる結果を注意する事を得べく、更に又實驗によりて彼の性質に關する種々なる事を發見し得べし。動物に於ては吾人の經驗に比較して彼等の動作を解釋する能はざるが故に、是以上に至



### 代時七の生人

る能はざれども、兒童にありては其と全く異り彼は吾人が同じ境遇の下にあるならば同じ動機より爲すならんと思ふ動作を爲すにあり。吾人は彼の内的生活を洞察し能ふ。

(二) 故に第二の方法は吾人自らを研究して、發見する所のものにより、兒童中に發見せらるべき所のものを想像することとなり、然れども吾人が自己を研究する時には、兒童の内的性質と甚だしき相違ある成人の内的生活を見るを以て、此方法は危険なることあり。故に吾人は記憶を用ひて幼時を忍び、如何に兒童が感し又思ふかを實現せざるべからず。

(三) 吾人は兒童の爲めに、或は兒童に就いて記したる良書によりて多く學ぶを得べし。人生

の種々なる時代の特性又心の種々なる模型に就いて記したる書籍は詳細に研究すべし。

(四) 兒童の性質に就いて専門的研究をなせし人より多く學ぶを得べし。日曜學校大會夏期講習會等に於てなさる、講演は此問題を了解するに良きもの多し。教師は以上の四方法によりて漸次兒童を知り得べし。

二、性質によれる分類、…塵々更に精密なる分類をなすことあれど、此處にては發動的受感的の二つに分つを以て足れりとす。

(一) 發動的兒童とは容易に又迅速に世界の感化に應答するものをいふ。此性質を有せる兒童は迅速に決心を爲し、速時に其決心を實行す。彼等は性急なると共に恰憫なり、彼等の怒は一時的にして人を免すことは一般に受感的兒童より速かなり。彼等は學ぶに速かなれど、容易に保留し得ず、熱心に決心すれども多少變り易き傾向あり。

(二) 受感的兒童とは容易に外界の感化に應答せざるものをいふ。彼等は判斷を下すに遅けれど、發動的兒童が急速に爲せしものよりも健實なり。彼等は又頑固に

ある一物に粘着す。此性質を有する兒童は明かに遲鈍なるを以て一般の人の注目を引くこと稀なり。

注意、此處に注意を要することあり。教師は總ての兒童を容易に又確實に斯く二分し得べしと思ふべからず。一般に論んずれば兒童の特性を捉へ來つて或ひは發動的或は受感的と云へど、或は兒童は他の者よりも更に多くの癖を有す。此處にてはその種々なる模倣を大膽に削除したれど、實際經驗に於ては兩者間に種々なる程度の存せるを發見す。要するに斯く區別するの價値は區別其ものに存するに非ずして、其が兒童研究に於ける要地を作るに存す。總てかゝる分類は經驗に照らして、改良するにあらずんば何等の價値を有せず。是を例するに彼の「女子は普通發動的にして、男子は受感的なり」と云へる語の如き、もとより其の内に或る眞理を存し、其内より或る教訓を見出し得べきなれど、自己の受持てる組の個人に引照して後應用するにあらずんば、非常に愚なるものとなるべし(アダムス)。

### 三、兒童の一般的なる性質

- (一) 不靜止的……此特質は屢々缺點なりと思はるれど、一方に偏せる教育を防止せんとする自然の準備なり。
- (二) 好奇心……好奇心を壓服すべからず、寧ろ刺戟すべし、此は兒童生活の重力なり。教師の依頼し得べき動機なり(アダムス)。
- (三) 遊戯の本能……此本能は兒童の性質の秘密を開く鍵とも見るべし、其は教育者の利用すべき種々なる傾向の天性的發表なり(ムーレー) 幼兒は筋肉を動かし、且耳を満足せしめ得る遊戯を好み、少年小女は競争的なるものを好み、青年は巧妙なるものを好む。
- (四) 話好き……良き話は常に兒童の心に至る門を開くならん。話を巧妙に爲するは初等科教師としての一要素なり。

兒童研究に就ての七参考書

エリサベス、ハリソン著

兒童性質の研究

ツォーター、シー、ムーレー著

一歳より二十一歳迄

マーガレット、スラ、テリー著

教師養成會に於ける講話

チセルトン、マーク著  
 ラモレー夫人著  
 ジョン、アダムス著  
 エスビー、ハスレット  
 黑板練習

教師と兒童  
 發展的生活  
 教授法初歩  
 教育學の日曜學校

七時代……搖、幼、初、少、中、青、成

方法 一、動作研究

二、自己研究

三、讀書

四、他人より學ぶ

一般的ノ特質

一、不靜止

二、好奇心

三、遊戲本能

四、話好き

試問

- 1、日曜學校教師の目的如何？
- 2、人生の七時代及び其大凡の年齢を示せ、

3、兒童研究の方法を問ふ、

4、第二の方法に於ける危険とは何ぞ、

5、兒童研究に關する二三の良書をあげよ、

6、發動的性を定義せよ、

7、受動的性を定義せよ、

8、發動的と受動的とを區別するに當りて注意を要する事は何なるや、

9、兒童の一般的なる四特性を問ふ、

第四十四章 幼稚科と其設備

幼稚生とは六歳以下の兒童にして、何處にも其姿を見ざる事なし、彼等は宗教的訓練を受けん爲に、教會を望みつゝあるものなり。

一、幼稚生の特性……此研究をなす間、全く同一なる兒童のあらざること、又或る特性は兒童の總ての時代より成人に迄通せるを記憶せざるべからず、例へば好奇心なる特性の如き、決して或一時代にのみ限られ居るにあらざるなり、然れども又賢明



なる教師は、各時代には各或る特質の存するあるを知るべく、而して其を利用し得べし。幼稚科生の特質は、

- (一) 身體の不静止…此時代の兒童は大凡十秒間静止し得るのみなり。其動作は多くは無意義にして而も休止せず。十分間何等の變化なしに、一の問題に就いて語ること、又同一の位置に居らしむる事は此時代の兒童には全く不可なり。
- (二) 自由なる想像…兒童の想像は實に驚くべきものなり。彼の想像には一本の杖も馬と見え、椅子の並べるも汽車と見ゆ。其想像の餘りに活潑なるが爲め、時としては眞實なる觀念に障害をなす事あり、彼には實際に存在せざるものが實物と見ゆるなり。或る小女が朝食の時に、蕎麥菓子の大なるものと極めて小さきものとを與へられければ、先づ小さき方を食ひさて想像を働かせて曰く坊や泣かないでもいゝよ、母さんが直ぐ来るからねと云ひて大なる方を食へり。
- (三) 究問的…此時代の終りにある兒童は事々に質問す。而して其質問は屢々亂雜にして何等の連結を有せざることあり。今や明白に成りつゝある究問的なる性質は次の時代に於て實に強く、又論理的と成る。兒童は凡てのものを學ばざるべ

からず。而して質問によりて學ばざるべからず。

(四) 讀書し能はず…此時代の兒童は大抵讀書力を有せず。故に其助なしに教授するを要す。

(五) 遊戯の本能…遊戯を好むは兒童の各時代を通じての特質なるが、此時代のは最も多く遊戯を爲す時なり。而して彼は未だ共同てふ事を知らざるが故に其遊戯には利己の分子を含む。

二、設備…以上の特質よりして吾人は其特質を善用し得る設備を爲すを必要とす

(一) 全く分離せる或は幕もて分てる教室…此時代の兒童は目前に来るものを見て見る目を有す。

(二) 適當なる椅子…高過ぎざる椅子を備ふべし。

(三) 適當なる繪畫…壁は最も適當なる繪畫を以て蔽ふべし。而して又時々變更するを可とす。

(四) 單純なる音樂…是は初等科唱歌集に見出し得べし。

(五) 適當なる計劃…幼稚科生の特質を頭に置いて計劃をたつべし。

(六) 單純なる補充學課…是は各所に於て出版さるゝ幼稚科補充學課中に見出すを得べし。

(七) 適當なる學課…萬國幼稚科用學課を必ず用ふべし。

(八) 靈感…インスピレーション 献身的に兒童を愛する教師より受くる靈感を必要とす。

黒

特 性	設 備
一、身體の不靜止 二、自由の想像 三、究問的 四、不讀 五、遊戲本能	一、離れたる室 二、適椅子 三、適書 四、單音 五、適計 六、單補學 七、適學 八、靈感

試問

1 幼稚科生の五特質をあげよ。

2 何故に兒童に眞實ならざるものが眞實に見ゆるか？

3 如何にして兒童の究問性を善用し得べきか？

4 幼稚科に要すべきもの八をあげよ。

5 如何なる學課制度が最も幼稚科に適するか？

第四十五章 初等科と其設備

滿六才に及びて兒童は學校に入學す。此時に至りて兒童は系統的教育を受け得る迄に發達す。彼が小學校に入學するに次いで、日曜學校に於ても、直ちに幼稚科より初等科に進級せしむべし。此科に屬するものは滿六才より滿九才に至る兒童とす。

一 初等科生の特質

(一) 學校時代の發端…彼は幼稚園に通學せしとするも、其處にては實く遊び得る道を學びしに過ぎず。然るに今や彼は學校に入りて研究すべき學科を有す。彼の學校生活は彼を種々なる新らしきものと、新らしき伴侶とのうちに置くなり。初等科教師は宜しく此事を心に留むべきなり。

(二) 覺官によれる知覺。學課を準備する中に、又教授するときに、其他何事にても初等科に於て爲す時には、教師は此時代が覺官によれる知覺の時代なることを記憶せざるべからず、殊に視覺聽覺は利用さるべきなり。

(三) 制取されたる想像。吾人は前課に於て幼稚科生は自由なる想像を持つことを考して其想像の餘りに活潑なるが爲み、時々しては眞實に對する觀念に障害と成ることを學びたり。初等科生は既に其時期を通過せるものなり。想像の非常に強きは事實なれど、其は今や彼の制取する所となる、而して此制取されたる想像は利用さるべく、又鼓舞さるべきものなり。

(四) 好奇心。此性質は單に此時代にのみ限られたるものにあらずれど、其を善用する方法を暗示せんが爲めに、此處に記したり。賢明なる教師は絶えず生徒の好奇心を利用して其の注意を誘ひ、感興を刺激し、眞理を印象す。彼は使用すべき時至る迄掛圖の畫を現さず、又黑板に圖解の一部のみを畫く。又机上に置く箱は蓋をなす、生徒は如何なる畫があるか、圖の残りの部分は如何なるものなるべきか、箱の内には如何なるものあるかを知らんとして、油斷なく注意を拂ふ。故に巧妙

なる教師は適當なる時に於て、畫を現はさんが爲め、黑板の圖を終らさんが爲め、箱の蓋を取らさんが爲め、適當なる時を量りて語り又動作を爲す。

(五) 模倣。日曜學校より歸宅する小女を注意せよ。彼は何を爲すか。教師の教へしことを語るか。恐らくは然かするならんが、單に其に止らず、彼は教師の爲せし事を模倣すべし。人形を集めて、生徒とし、自ら教師となるならん。曲藝會より歸り來る男子は何爲すか。人の網渡りする事を話すか。然り、實に彼は自ら網を張りて渡らんとこゝろむ。此模倣は初等科時代に限れるものにあらずれど、九才十才の時に於て殊に甚し。

(六) 確實を好む。兒童は容易に物を信する性質を有すれど、確實を好む性質は此時より現れ初む。正直確實、たしか等は屢々此時代の兒童に用ひらるゝ言葉なり。エス、ビー、ハスレットは其著教育學の日曜學校に此物語を記せり。

數人の子供が遊びたりしが、急に斯の如き會話起りぬ。

太郎 「花チャン、僕のナイフを知らないかい」

お花 「知らないことよ」

太郎 「御前が取つたらう」

お花 「私、知らないわ」

太郎 「ぢや失くしたらう」

お花 「私、あなたのナイフなんか持ちはしないから……」

太郎 「確實かい」

お花 「確實だわ」

太郎 「眞實に確實かい」

お花 「眞實に確實だわ」

太郎 「死んでも虚言をつかないかい」

お花 「虚言なんかつきやしないわ」

太郎 「虚言を云つたら首をくれ？」

お花は黙しぬ。

太郎はいと静に而も嚴かに「虚言を云つたら首をくれ？」

お花は仲間を退きぬ。彼は怒るが如く見えしが、やがて歸り來つて、ナイフを其

足許に投げ出し、何處にか去りの子供等ははやし立て、曰く「ヤーイ 確實だと云つたくせに」虚言なんかつきやしないと云つたくせに、ヤーイ」

彼等は一週間お花と遊ばざりき。

(七) 活動。此時代の児童は常に何事かを爲さん事を欲す。もしも何事かなすべき事を與へられざる時は、自ら見出すなり。小學校の教師が生徒を罰せんが爲めに十五分か三十分の静座を爲さしむる事あり。此時代の児童には是以上の罰なかるべし。

(八) 愛情。初等科教師の愉快に感ずる一事は生徒が教師を愛することなり。中年科生が屢々爲す如く教師は此質問に答ふるを要す。児童は何を愛するや、初等科の児童は其の愛情を表すことを恐るゝこと無し。

(九) 制限されたる用語。初等科児童を教へんには教師と生徒とが同じ意味に受くる言葉を用ゆべく、組心の注意を要す。

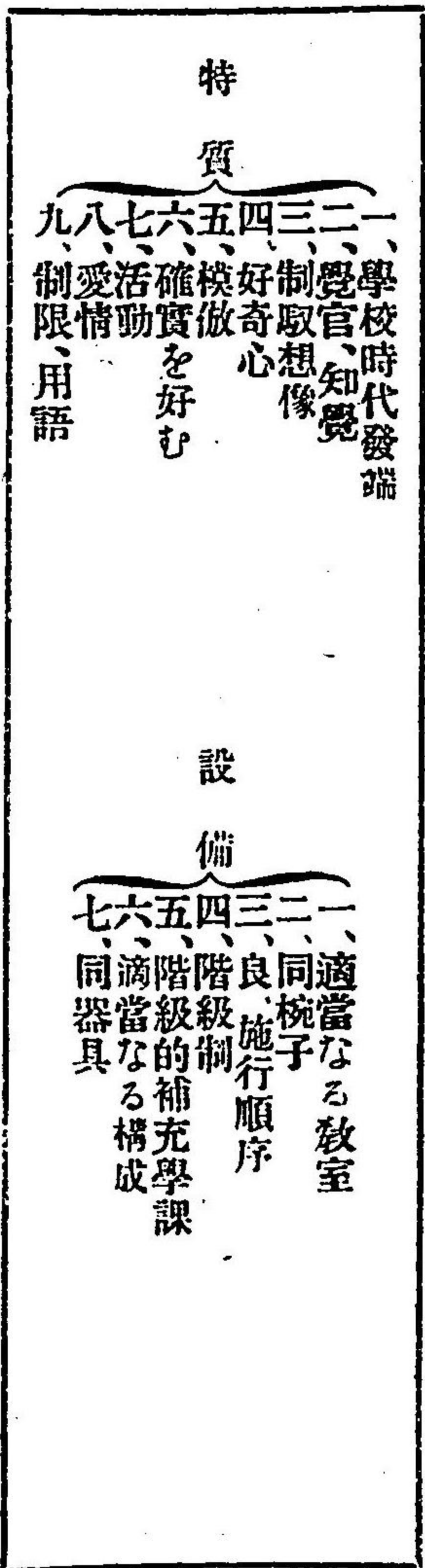
## 二、設備

(一) 適當なる教室。規定の初等科施行順序を學ぶに適せる分離せる、或は幕にて

- 分てる教室。
- (一) 適當なる椅子：高き椅子は大なる障害なり。
  - (二) 巧に計畫されたる施行順序：歌祈禱行進曲、補充學課等の組合せられたる施行順序。
  - (三) 階級制度：若し充分なる場所を有するならば三級、三組或ひは六組に分つ可とす。大なる初等科にありては必要に應じて多くの組を作るべし。最も良く構成せられたる初等科の多くは六人より十二人に至る生徒を收容す。
  - (四) 階級的補充學科：普通の學課以外に或部分を定めて毎月、毎年教ゆべきなり。
  - (五) 進級及び初等科卒業は最も必要とする所なり。
  - (六) 適當なる構成：初等科主任、オルガン掛、書記、教師以上は皆良く構成せられたる初等科の必要とする所なり。
  - (七) 適當なる器具：掛圖、初等科用リーフレット、外國傳道に關する珍奇なる物品及び實物教授に要する物品を藏むる箆笥、書籍及び記録を入れる、箱、書記の机等は適當の器具なり。而して此等のものは絶體的に必要なりといふにあらざれど、良

好なる教授を爲さんとせば是等のもの、助を待つこと大なり。

黑板練習



試問

- 1. 何才より何才までを初等科と爲すか？
- 2. 初等科生の九特質をあげよ、
- 3. 學校に入學せる兒童は何故に日曜學校に於て進級せしめざるべからざるか？
- 4. 初等科教師の最も利用する二覺官は何なりや？
- 5. 初等科教授に於て如何にせば生徒の好奇心を利用し得べきや？

6. 如何にせば生徒の活を指動導し得べきや?
7. 初等科に於て要すべきもの六をあげよ。

### 第四十六章 少年科、と其設備

少年科は十才より十三才に至る児童を包含す、児童は凡そ十才に達すれば次第々に變化して初等科時代の初期に好みたりしものに興味を感ぜざる様に至る。曾つて好みたりし運動的の歌は彼を煩すものとなり、曾つて喜びたりし搖籃記録、誕生日、遊戯等は彼の目に子供らしく映す。今や彼は大なる子供と成りしなり。故に彼は其の如くに待遇さるゝを欲す。是は獨り男子に於てのみ然るにあらず、大體の所は女子に於ても同様なり。

少年科を九才より十三才となすは心理學上、教育學上の理由ありての事なるが尙吾人は諸君が此一年を記憶せられんことを望む。所と滿八才、十一ヶ月の児童と滿九才即ち十才の児童とは決して同一にあらず。過去九年間に於て彼が學びたりしことは凡て彼と共に此時代に入る。幼稚科及初等科時代の特質にして少年科に

至るもの多し。幼稚科生の不靜止は初等科に於て活動となり、少年科に於ては蒸氣機關兒の非常なる精力となる。

#### 一、少年科生の特質

(一) 讀書時代…児童は十才に達する頃よりして容易に讀書し得る様になるが常なり。彼は手あたり次第に多くの物語を讀む故に児童が少年科に入り來るや、教師は此讀書慾を利用して聖書の何處に良き物語があるかを教へ、又彼が讀みし物語に就いて語るべき機會を與ふるを要す。生徒をして自己の聖書を持たしむるには、聖書の種々なる部分に種々なる興味ある物語、比喻を見出さしむべく訓練するには此時を適當とす。

(三) 蒸氣機關時代…太郎が或る時その居室に於て遊び居たりしが、ふと非常なる叫聲をあげぬ。厨にありし母は急ぎ來りて氣遣はしげに問ひぬ、どうしたの、いゝえ、何でもないんですよ、けれども大きな聲を出さなかつたら死んじやつたでしよう。此時代の児童は歩むよりも走らんことを欲す。彼の好む遊戯は強烈にして冒險の機會あるものなり。而して彼又小さきものとして云はるゝことを好まず。

又子供らしき遊戯を欲せざるなり。彼の好む所は戶外運動なり。蓋し其種の運動は貯蓄せる精力を利用する機會を與ふればなり。

(三) 究問時代……幼稚科、初等科時代に於て著しかりし此特質は少年科時代に於て其絶頂に達す。彼はざりがにが何故に後方に歩むか、鶏が鳴く前に羽曲たきするか、雛が眠る時に巢より落ちざるかを知らんと欲す。彼は矛盾を注意して根どひ葉どひ疑問を發す。彼又總ての覆面を剥ぎて其本質を現すを好む。

(四) 友情時代……此時代の兒童は男女共各友を有す。而して此等の友は常に共に居らんことを欲して、決して厭倦を感ずるが如きことあらざるなり。彼等は又決して男女打ち交つて遊ぶ如き事を爲さず。女兒は其 社會を持ち、男兒は其 堂類を持つ。俱樂部心は此處に始まるなり。

(五) 記憶時代……エー、エッチマッキンネーは「初等科の後に如何」と題せる其著書に於て或る老人が屢々其妻に語る言語を記す十一才位の頃、其を知つて居つたよと。彼が屢々斯う云ふを以て其妻は或時譏りて斯くいへり「十一以來何も御覺えなさらぬ」とはまお御氣の毒です。勿論此は一時の戯に過ぎずと雖も、尙其の中に

或る哲理を含む。定めし彼は成人時代に種々なることを學びしならんが、彼の最も記憶せることは記憶時代に於て學びし事なりしなり。少年科教師は記憶が最も印象さるべく、又固着すべき時代の兒童を有す。故に兩親にもあれ、教師にもあれ、新舊約史梗概其他多くの貴重なる聖句等を此時代の兒童に浸潤せしめずして過ごすことあるは、罪を犯すものなりといふべし。

(六) 習慣養成時代……此時代の兒童は男女に係らず、大人の爲すことを模倣せんと試む。呪咀、喫煙、竊盜等の習慣は此時に始まること多し。此時代は又善惡に於ての習慣養成時代なり。日課としての聖書研究及び祈禱、又說教會の出席、組織的惠與等の習慣にして、まだ作られざるあらば、此時代に於て養成するを可とす。

一、疑問及其答……此處重大にして又自然な疑問あり。少年科教師は其僅少なる時代に於て如何にしてその種々なる習慣養成上に或る確實なる事を成就し得べきや答へて云はん。殆んど總てのものは教師及び教師が組或は科を管理する際に共なるべき人々の行動に依るなり。言を替ふれば指導者は正しき習慣を養成せしむる程なる空氣を創造し保持せざるべからず。指導者の學校生活を後陣と

せる適當なる日曜學校空氣の力は實に偉大なるものなり(マッキンネ)汝が生徒を爲さしめんと欲する事は汝自ら爲せ。

(七) 收穫時代：七時代中少年時代が最も靈性上の收穫多き時なり。日曜學校及び家庭に於て適當に教へられたる生徒は十才より十四才の間に或る時に於て信仰を告白して、主基督に自らを獻げんことを自然に欲するものあるべし。賢明なる少年科長は兒童に如何にせば信者に成り得べきか、又如何にせば信者の生涯を送り得べきかを知らしめん爲に、聖書の適當なる部分が教授されつゝあるやを注意すべし。

二、設備

(一) 組織的 少年科：屢々斯る説を爲すものあり、初等科生が卒業するや、巧に構成せられたる初等科の熱床より、不足勝ちに構成せられたる本校の涼室に來ると少年科生に氷冷せるもの多きは奇しむに足らず、少年科は宜しく適當に構成せらるべし、唯一室のみを有する處に於てもそれは決して出來得ざることにあらざるなり。

(二) 自身の聖書：近時、初等科卒業生に聖書を與ふる良習慣起り來りしが、其が爲されざる所に於ては如何なる方法かによりて、生徒各自に聖書を有せしむるやうにすべし。然れども聖書を與ふるは普通最良の方法にあらず、何等かの働により、生徒をして得せしめよ、然らずんば買はしめよ。

(三) 手工用の卓地圖を作らしめ、或は歴史を書かしめ、或は切抜帖を作らしむる事の如きは此科の生徒に必要とする所なり。

(四) 階級的補充學課：此時代は記憶時代なるを以て或る補充學課を記憶の材料として用ゆべし、而して毎日或は毎年に學ぶべし一定の量を定むるを要す。

(五) 適當なる讀物：一般に此時代に於ては普通の讀書力を有するものなれば善良なる讀物を持たしむる様に指導すべし、生徒は何を讀むべきかは教師の考ふべき問題なり。

(六) 適當なる働き：蒸氣機關時代にある兒童は男女に係らず、何物が爲さるべからず、賢明なる少年科教師は此特質を利用して少年にありては、使者隊を作らざり、少女にありては日光隊を構成す、而して家庭科生徒に使せしめ、缺席者を見舞



はしめ、病者に花を贈らしむ。教訓的にして愉快なる親睦會の如きものは時々企つるを可とす。

(七) 學課の適用：如何なる種類の學課が用ひらるゝにもせよ、必ず如上の特質に適用せしめよ。少年科生に教ふるには初等科に教ふる如く、中等科に教ふるが如くなるべからざるなり。兒童の好む所を學べ、而して接觸點として學課を教へよ。

黑板練習

特 質							備						
二	三	四	五	六	七	一	二	三	四	五	六	七	
讀書時代	蒸溜機時代	究問時代	友情時代	記憶時代	習慣養成時代	構成的少年科	自身の聖書	手工用の卓	階級的補充學課	適當なる書物	適當なる働	學課の適用	

試問

1. 少年時代とは何頃を云ふや？
2. 何故に少年科は必要なるか？

3. 少年の七特性を挙げよ。
4. 少年科に對する設備七種を挙げよ。
5. 少年科を形成するに如何なる方法を探るか？
6. 手工とは何ぞや。
7. 階級的補充學課とは何ぞや。
8. 何故此時代を收穫時代といふや？

### 第四十七章 中年科、其設備

青春時代は春情發動期と成熟期との間の時代の謂なり。此時代は屢々第一期、十三才より十七才、第二期、十七才より二十一才、第三期、二十一才より二十五才の三期に分たる。而して我が中年科はその第一期に當るが、此時に於て少年は男となり、少女は婦となる。

此時代の重大なることはエス、ビー、ハスレリーが其著教育學の日曜學校に於て明言する所あり。曰く「青年時代は人生の中心を爲すものにして、幼年時代はその準

備、成年時代は其の結果なり。人生の黄金時代と云ふも不可なかるべし。靈も肉も此處に至つて最大最速の發展を成し、其寶庫を開いて、過去に於て畜へたりし一切の寶を大河の勢を以て注ぎ出だす。恰も自然が最大の大努力を爲して、一切のものを抱合せんとすが如し。將來の人如何は青春の人を見て知るべく、一人種の將來は此時に於ける個人の愛せる所如何によりて定まるといふも、過言にあらざるべし。如何となれば此時が、其性格に於て、價値に於て、活動に於て、將來に關する事、最も大なればなり」と。

一、中年科生の特質：個人々々が多様に異なる特質を有するを以て、一般の特質如何を論ずるは困難の事なり。此時代に關する總ての規則は例外あり然れども最も顯著なる特質を擧ぐれば左の如し。

(一) 迅速なる身體の發達：女子にありては、十三才より十五才、男子にありては十五才より十七才を發達の最も速なる時とす。男女とも一年に五六寸或は八九寸の成長を爲すもの珍らしからず。斯く迅速なる發達の結果として、其動作が不法となるとあり。女子が月經を催し、男子が椅子を轉ばす時なり。此突飛未熟なる

戲言、赤面、高聲の會話、亂暴なる行動、又時としては怠惰は實に此過渡時代を表現するものなり。

(二) 滑稽：此時代の兒童は特別に滑稽なる物語を好む。而して彼等の好む滑稽は或人をして倦怠せしむる種類のものなり。人の知らざる間に椅子を動かすや人の帽子をたゞき落すことや、人を借す事は彼等の好む所のものなり。従つて是等の亂暴なる戲を了解する能はざる教師は彼等の内的生活に入る能はざるなり。

(三) 盛なる名譽心：此時代の生徒は一般に告げ口を爲さず。此時代の少女は、且朋友の告げ口を爲すよりも、寧ろ鞭打るゝを撰ぶなり。されば教師は此の中等科の生徒をして告げ口を爲さしめざるべし。此の名譽心を充分に承認し、發展せしむべし。

(四) 激烈なる感情を愛す：彼等は血湧き肉躍るが如き物語を愛す。男子は冒險的なるものを好み、女子は男子に對する書物を、自身に對するものと同様に愛讀す。男子は之に反して女子に對するものには餘り興味を有せず。若しくは全く無頓

着なり。

二一〇

(五) 新らしき宗教的經驗：良く構成せられたる日曜學校に於ては少年科の終りに於て生徒を基督に導く。故に此の科の生徒は新らしき宗教的經驗を味ふものなり。彼は實に最も確定せる方法によりて基督者たる性格を作りつゝあるものなり。此時に當り善惡の二傾向があらゆる形を爲してあらゆる方面に激しき争闘を起す。モーロー博士が伊太利の或る中學に於て、三千の學生に就いて研究せる結果として、十二才にして行ひ宜しきもの、十五才にして全く最低に沈み、又漸次に高まり十九才にして最高の點に達することを見出せり。是によりて考ふるに兒童を少年科に於て基督に導くことが如何に肝要なるか、又中等科が如何に危険なる時代なるかを明らかに知るべし。

(六) 英雄崇拜：此時代にある生徒は男女何れも其の崇拜する英雄を有す。而して其英雄の人格が生徒の人格を形成するに多大の關係を有す。生徒の崇拜する英雄が拳闘者なるか、軍人なるか、發明家なるか、或は惡漢なるか、其が何れなるにもせよ、教師の直ちに利用すべき接觸點なるなり。繪畫書籍の如きものは生徒の英

雄崇拜に少なからぬ勢力を有す。

(七) 争闘：此特質は全く男子に專屬すべきものなり。此時代にある兒童程多くの騒動を引き起すものあらざるべし。彼は食せんよりは争闘せん事を欲す。若し争闘の相手をも有せざることあるか、彼は少なき兒童を獎勵し、喧嘩せしむ。或る時シカゴの青年會の日曜學校に於て中等科生に、争闘を爲さざる兒童を如何に考ふるやと質問せしが、其んな奴は駄目だ「弱虫だ等の答を得たり。然らば吾人は此喧嘩好きの兒童を如何にすべきやといふに、全く望無し」と云ふもの多けれども、其は大なる過なり。此特質は或る徳行が過て多方面に走れるなり、即ち此特質は俠勇心の發現を示す。兒童に争闘を爲さざる方に多くの俠勇存することを知らしむべし。然らば彼は無暗に争闘を爲さざるべし。

## 二、設備

(一) 中等科教師：此科の生徒は兒童にもあらず、大人にもあらざる事を了解し、生徒の粗暴なる動作や、生徒の笑ふ傾向や、赤面することの理由を知りて、其を一概に悪しとせざる教師。此過渡時代が肉體的に於ても精神的に於ても大なる危機

- なることをわきまふる教師を要す。
- (二) 同性の教師：一般に此科に於ては同性の教師を可とすれども、除外例の強き人格を有せる女教師は何等の熱も有せざる男教師より遙に善し。
  - (三) 適當なる讀物：此時代の兒女は、冒險的、俠勇的の物語を好むを以て、日曜學校にてはその種類のもを供給せざるべからず。彼等は良く讀書す。教師は其の讀物が善惡何れの俠勇に屬するやを見分けざるべからず。
  - (四) 補充學課：現定の學課以外に多くの聖書傳記を含める補充學課を用ふべし。
  - (五) 構成的學級：此時代の兒女は個人離れ、一團と成りて働くを好む。此特質を利用して何等かの働を爲さしむる爲に或る機關を構成すべし。此時代の男兒は屢々教師よりも巧に自身の組を制御することあり。
  - (六) 適當なる交際：生徒を家庭に招け、而して彼等の特質に應じたる待遇を爲せよ。……バス、ボールのグラウンドに男兒を伴ひ、女兒と共に散歩せよ、一言を以て言へば、遊戯を指導すべし。
  - (七) 親友：此科の生徒は各々親友を要す。家庭の外にありては日曜學校教師が其

親友たらざるべからず。教師は生徒の經驗の危機を警戒して、迷路に入らざるやうに守りて此危險なる時代を安全に導くべし。又基督を彼等の英雄として崇拜する様に導くべし。

黑板練習

<p>特 質</p> <p>一、迅速なる肉體の發達 二、滑稽を好む 三、名譽心 四、感精的なるものを好む 五、宗教上の新經驗 六、英雄崇拜 七、爭鬭</p>	<p>一、中等科教師 二、同情の教師 三、適當なる讀物 四、適當なる學課 五、構成的學課 六、適當なる交際 七、親友</p>
--	--

試問

- 1、青年を定義せよ。
- 2、中等科生の五特質を挙げよ。
- 3、中等科の終の時代にある男兒は何故に爭鬭を欲するや？
- 4、中等科に要する五のものを挙げよ。

5. 如何なる種類の補充學課を要するのか？
6. 何故に構成的學課を可とするか？

#### 第四十八章 青年科 其設備

萬國日曜學校協會の成人科は十七才以上の人總てを含む。而して此科は所謂青年科及び成人科を合したるものなり。

- (一) 青年科：十七才より二十五六或は三十に至る。
- (二) 成人科：二十五六或は三十年より死に至る。

##### 一 青年の特質

(一) 強き智力：合理的思考力は此時代に至りて迅速なる發達をなす個人の態度は此時に定まり、彼は又此時に人生の意義を考へ始む。彼は又嚴肅なる深遠なる問題を好みて思考す。世界の哲人にして、二十五才前に其大事業を爲せしもの少なからず。シユリングは二十一才にして哲學者として認識され、カントは二十二才にして其文學界に現はれ、アリストートルは十六才にしてプラト一の門に入り

て哲學の研究を始めたり。中等科時代に於ける心理上の急激なる變化は此處に至りて確乎たる智力の發達となる。

(二) 考究心：中等科時代に於ては證據の一部分を捕へて直ちに結論に飛び越えんとする傾向を有せしが、此處に至りて彼は尙多くの證據を要求す。彼は問題のあらゆる方面を見んことを欲す。彼は證據の考究に周到なる注意を拂ふ。

(三) 強き名譽心：青年の名譽心を宗教的或は活動的の生活に善用せんとせば、其を尊敬せざるべからず。下に示す出來事は教育學の日曜學校に記載されたるものなるが、良く其の事實を證明す。數年前の事を記憶するが或人が家に至て「私の子供は全く駄目です。何も役にたちません。勉強も爲なければ働きもしません。どうしたら良いか私には解りません」と訴へた。私はまあ私の處へよこして御覽なさいと云つた。その子供と云つても二十二才に成る青年が私の家に來た。私は彼を私の部屋に伴つて、彼に云つた。どうか私の云ふ事を聞いて下さい。私は貴君に大なる希望を持つて居ます。貴君は立派な能力を持つて居ますから、爲る氣さへあれば、どんな事でも出來る事を私は知つて居ます。貴君は善い機會を持つて居

じやありませんか、貴君は確かに多くの人を驚かす様な事をする事が出来ます。彼は私の顔を見た、實に惜しいもんだ、どうです、一つ奮發してやつて御覽んなさい。二人はクエーカーの集會の様に黙つて座つて居る。暫くして又私は云つた、どうです、羅句語をやつたら、そして首席におんななさい、私は何處迄も貴君の證人に成つてあげる、貴君が首尾よく成功したら私は人に紹介してあげる、どうです、奮發しようではありませんか、彼は果して首席に上つた。彼が大學に入らんとした時、私は又彼に云つた「貴君は是から大學に行くんですが、又一つ奮發して首席になつて下さい、私は今迄貴君の事を餘り賞めなかつたかも知れないけれども、私は大に貴君に就いて誇つて居ます、外の人も段々貴君の價値を認めてゐます、どうかうまくやつて下さい、彼は又成功した。彼は今此の國に於て一流の教師である、そして外國にまで知られてゐる。私は彼を造つたのではないが、實に私は彼に目を附けてやつたのである」と。

(四) 家庭の本能：青年時代の中間に於て、男女とも各異性に關する問題にも興味を感ず。然しながらその興味は其淺薄なるものにして、兎角實の無き雜談を生ず

結婚及家庭に關する問題が討論されたる時には眞面目なる事は少なし。家庭を造る力は中等科の終に於て漸く發達の途に登り、青年科に至つて、結婚生活の實際が生徒の心を捕ふ。而して此處に成熟以前に家庭生活の責任を負はんとする危険あり。此時代は男女の立混りたる會合を要求する時なり。

(五) 公衆の説を氣に掛く：男兒は他人の説を顧慮すること稀なれど、此時代に至りては人の考ふる所云ふ所は非常に重大なる問題なり。而して其行爲の多くを支配す。

(六) 明確なる善惡の觀念：中等科時代の多くの粗野なる特質が尙跡を留むれども、男らしき、又女らしき要素現れ來る。青年は總て最善最高なるものを好むが故に其を利用すると否とは別として、一般に明確なる善惡の觀念を有するを常とす。彼の良心が非常なる力を爲して實際生活に及ぼすこと大なり。彼は崇高なる主義、人格の高き標準を了解す。而して又青年時代は多くの罪人を造る時なり、無類の惡漢は往々二十歳以下の青年に於て見出さるゝことあり。

(七) 喜悅の生活：青年は世を樂しみて生活す。自然は彼等に寛大にして喜樂は湧

れ、希望は輝く、神は此の喜ばしき生活を青年に送らしめんと望み給ふなれど、其は神の意志がかゝる幸福にして希望ある生活に表はれたるを了解せる教師の良き指導あるを要す。

三、設備

(一) 構成的學級：各日曜學校には一個或は其以上の構成的學級あるを要す。校舎の大なる所にありては青年の爲めに一級、女子青年の爲めに一級、及び或人男女混合の一級を設くるを可とす。而して是等の學級には教師、級長、副級長、書記、會計及び少くとも視察、交際、祈禱の二委員あるを要す。さらば學級は以前よりも擴張すべし。

(二) 適當なる宗教的感化：學校の多くは青年を感化すること極めて稀なり。如何にして是を得べきか。

其一、毎日曜の朝戸口に於て來會者を落度なく接待するものを少くとも六人を置く事、人は一人の歡待を喜ぶべし。

其二、月曜の朝教師は各新入生に對して組及び學校よりの歡迎の辭を手紙

にて送るべき事。

其三、親睦會に於て執行目錄は各派の特徴を發揮して作らるべき事。

其四、最初の第一回を除いては何人をも事業に無關係なるものと爲さしむる勿れ、各新入生をして直ちに働かしめよ、何人と雖も能く之を用ひざれば其信仰は永續せざるべし。

其五、基督と人とを愛する教師を持つ事。

(三) 訓練課：此の時代の生徒は一層主の爲めに貢獻せんが爲めに特別なる訓練を望む者多し。此目的に對して教師養成課は年々組織さるべきものとす。而して此級を卒業したるときには適當なる修業式を行ふ事を要す。

黑板練習

<p>特 質</p> <p>一、強き智力 二、考究心 三、強き名譽心 四、家庭の本能 五、公衆の説を氣にかく 六、明確なる善惡の區念 七、喜悅生涯</p>	<p>設 備</p> <p>一、構成的學級 二、適當なる宗教的感化 イ、歡迎 ロ、手紙 ハ、親睦會 ニ、働か ホ、基督人を愛する教師 三、訓練課</p>
---	--

試問

1. 成人科の自然的二區分を問ふ。
2. 青年の五特質を挙げよ。
3. 青年科に對する設備は何か？
4. 青年には如何にして宗教的感化を與へ得べきか？
5. 構成的學級の定義如何。

第四十九章 成人科、其設備

前章に於て成人科は自然二部に區分したり。即ち(一)青年科及び(二)成人科是なり。此章に於てに第二部に就て講せん。

一、成人の性質

- (一) 愛國心：愛國心は此時代に於て最高度に達す。
- (二) 回顧力：成人は過去を顧みて當時の活動を回想す。彼等より「斯くありし」といふ事を除くは彼等の快樂の最大源を除くに同じ。

- (三) 清談を樂しむ：青年に對する社交機關には種々なる遊興を要すれど成人にありては座して靜かに清談を樂しむものなり。
- (四) 家庭：父母は主として家族の中心たり。眞に彼等の生は子女の爲めに存し、其益を計る事を無上の樂しみとなす。
- (五) 博愛の嗜好：利他の精神は少年時代に於て漸く發揮せられ、青年に至りて益々發達し、今や活用の時期に達せるなり。成人は内外の傳道國家學校及其他一般人類の安寧に關する凡ての事業に關係す。
- (六) 指導及模範の精神：成人は自己の指導力あるを信じ、又後輩の採るべき道の模範たるべき義務あるを自覺す。
- (七) 遂行的能力：政治家、法律家、教育的及實業家等ば此時代の人なり。

二、設備

- (一) 良教師：成人が多數日曜學校に出席せざる一原因は教師が學課に興味を附せざるにあり。近時一成人科に於て何故多數の人が出席せざるやとの質問ありたりしが、其答は、教師が餘りに理論に走る故に「教師が餘りに説教風に過ぐる故



に「教師が餘りに果實の無き講義を與ふる故に」教師が餘りに兒童視する故に等なりき故に成人に對しては聖書に通曉せる教師、精通せる組織者及び熱烈なる指導者を要す。

(二) 構成的學級：成人は組織的の活動を好む而してこは一に組織方法の如何に存す、各學級より其程度に應じて級長、副級長、書記、會計及其他の委員を選擧すべし。

(三) 適當なる教室：成人は多くの他級と共に一室に於て教授するは不可なり、されば出來得べくんば室を區別するを最上とす、多數の成人は研究の爲めに三十分間教會附近の家屋に在るを以て、開會及閉會式には他級と共に列席す。

(四) 待期奉公團：此は近時成人科に起りたり、人は國家の爲には家を離れ職業を棄て、僅少の賃拾に甘んじ、食を忍び、地上に寝ね、苦戰奮闘す而して此の日曜學校に於ては其と同様に神の爲めに凡てを棄て、働く人を養成するなり。

黑板練習

特 性	設 備
一、愛國心 二、回顧力 三、清談を樂しむ 四、家庭嗜好 五、博愛嗜好 六、指導及模範の精神 七、遂行的能力	一、良教師 二、構成的學級 三、適當なる教室 四、待期奉公團

試門

- 1 成人の七特性を擧げよ。
- 2 其等の特性中の孰れが男子に最も著しきと思ふか？
- 3 婦人に著しきは何か？
- 4 成人科に於ける四個の設備とは何か？
- 5 成人科の成功せる教師は如何なる資格を要すべきか？
- 6 諸君は成人科を組織するに如何なる手續きを取るか？
- 7 分離せられたる教室なき場合には、其に次ぐ最良法は何なるか？
- 8 待期奉公團は何故必要なるか？

### 第五十篇 圖表研究

卷尾に載せたる練習問題集第二六八より二八八迄を用ゐよ。

特性と設備

特性

設備

<p>幼 一、身體の不靜正 二、自由の想像 三、究問的 四、不讀書 五、遊戯本能</p>	<p>稚 一、學校時代の發端 二、習官、知覺 三、制取されたる想像 四、好奇心 五、模倣 六、確實を好む 七、活動 八、愛情 九、制限されたる用語</p>	<p>初等科 一、適當なる教室 二、適當なる椅子 三、良好なる施行順序 四、階級別補充學課 五、階級的補充學課 六、適當なる構成器具 七、適當なる器具</p>
--	---	---

<p>少年科 一、迅速なる肉體の發達 二、滑稽を好む 三、名譽心 四、感情的なるものを好む 五、宗教上の新經驗 六、英雄崇拜 七、爭鬪</p>	<p>中年科 一、中年科教師 二、同情なる教師 三、適當なる讀物 四、適當なる學課 五、適當なる學際 六、適當なる交際 七、親友</p>	<p>少年科 一、構成的少年科 二、自平の聖書 三、手工の卓學課 四、階級的補充學課 五、適當なる働物 六、適當なる働物 七、學課の適用</p>	<p>青年科 一、強き智力 二、考究心 三、強き名譽心 四、家庭の本能 五、公衆の說を氣にかく 六、明確なる善惡の觀念 七、喜悅の生涯</p>	<p>成人 一、愛國心 二、回顧力 三、清談を楽しむ 四、家庭</p>
---	--	--	---	---

科 五、博愛の嗜好  
六、指導及模範の精神  
七、遂行的能力

三、適當なる教室  
四、待期奉公團

練習問題集

此處に載せたる練習問題に答へ得る人は最後の試験に成功せん。

第一篇 聖書と其區分

- 1 聖書なる語の意義を問ふ。
- 2 聖書中にある二つの名を擧げよ。
- 3 聖書の二區分の名をいへ。
- 4 舊約書の中には幾卷あるか？
- 5 新約書の中には幾卷あるか？
- 6 全聖書を通じては幾卷あるか？
- 7 舊約書の區分を云へ。
- 8 次の諸部分には各何卷あるか？

律法、歴史、敬虔、大預言、小預言

- 9 律法の書は何々か？
- 10 歴史の書は何々か？
- 11 敬虔の書は何々か？
- 12 大預言の書は何々か？
- 13 小預言の書は何々か？
- 14 新約書の區分を云へ。
- 15 次の諸部分には各何卷あるか？

傳記、歴史、特別書翰、一般書翰、預言

- 16 傳記の書は何々か？
- 17 歴史の書は何々か？
- 18 特別書翰は何々か？
- 19 一般書翰は何々か？
- 20 預言の書は何々か？

- 21、マタイの書きし書は何か？
- 22、マコノ書きし書は何か？
- 23、ルカの書きし書は何か？
- 24、ヨハネの書きし書は何々か？
- 25、特別書翰を書きし人は誰か？
- 26、次に記せる人々の書きし書名を言へ、ペテロ、ヤコブ、ユダ、
- 27、共觀福音書の名を問ふ、
- 28、使徒の書きし福音書の名を問ふ、

### 第二篇 實證に關する學課

- 29、聖書を神の言と信する八ヶ條の理由を問ふ、
- 30、基督を神の子と信する八ヶ條の理由を問ふ、

### 第三篇 舊約歴史

- 31、舊約歴史の十六人の代表的人物を順序を追ふて云へ、
- 32、最初の殺人犯罪者は誰か？
- 33、最初の殉教者は誰か？
- 34、ノアの三子は誰々か？
- 35、アブラハムとロトとの關係を問ふ、
- 36、ヤコブとレアとの子は誰か？
- 37、ヤコブとラケルとの子は誰か？
- 38、ヤコブとビルハとの子は誰か？
- 39、ヤコブとシルバとの子は誰か？
- 40、モーセは何國に生れしや？
- 41、何といふ山にて彼は死せしか？
- 42、モーセの後繼者は誰か？
- 43、ヨシユアの死後如何なる制度起りしか？
- 44、士師中最強の人は誰か？

- 45、婦人にて士師たりし人は誰か？
- 46、最後の士師は誰か？
- 47、士師は凡て幾人なりしか？
- 48、ユダヤ人の最初の王は誰なりしか？
- 49、最初の王を王として膏て沃ぎしものは誰か？
- 50、ユダヤ人の第二の王は誰か？
- 51、第二の王に膏を沃ぎしものは誰か？
- 52、ユダヤ人の第三の王は誰か？
- 53、何といふ王の死後にユダヤ王國は分離せしか？
- 54、分離したる王國の北部の名稱を問ふ、
- 55、北朝の最初の王は誰か？
- 56、分離したる王國の南部の名稱を問ふ、
- 57、南朝の最初の王は誰か？
- 58、舊約歴史の六區分を問ふ、

- 59、試練時代の時期を問ふ、
- 60、準備時代の時期を問ふ、
- 61、征服時代の時期を問ふ、
- 62、權力時代の時期を問ふ、
- 63、傾勢時代の時期を問ふ、
- 64、隸屬時代の時期を問ふ、
- 65、舊約と新約との間は何年を経たるか？
- 66、試練時代に於ける三事件を問ふ、
- 67、準備時代に於ける三事件を問ふ、
- 68、征服時代に於ける三事件を問ふ、
- 69、權力時代に於ける三事件を問ふ、
- 70、傾勢時代に於ける二時期を問ふ、
- 71、隸屬時代に於ける五時期を問ふ、
- 72、試練時代に於ける二人物を問ふ、

- 73 準備時代に於ける二人物を問ふ、  
74 征服時代に於ける四人物を問ふ、  
75 権力時代に於ける三人物を問ふ、  
76 傾勢時代に於ける三人物を問ふ、  
77 隸屬時代に於ける五人物を問ふ、  
78 次の事件の起りし年月を問ふ、  
一、サマリヤの陥落、二、バビロン虜囚、三、バビロン虜囚よりの歸國、  
79 紅海を越えてイスラエル人を導びきしは誰なるか？  
80 ヨルダン河を越えてイスラエル人を導びきしは誰なるか？  
81 四大士師の名を問ふ、  
82 何時イスラエル王國は亡がしか？  
83 福音預言者とは誰をいふか？  
84 泣哭預言者とは誰をいふか？  
85 エダヤ人のエルサレムに歸るを許せしベルシャ王の名を問ふ、

- 86 アレキサンデル大王の君臨せしは何國なるか？  
87 エダヤ人とエダヤの宗教の爲めにギリシヤ政府に反抗せしは誰なるか？  
88 ヘロデ大王は何國の王たりしか？  
89 基督降誕時代のヘロデとヘロデ大王との關係を問ふ、

#### 第四篇 新約歴史

- 90 新約歴史の三區分を問ふ、  
91 基督の生涯の七時代を問ふ、  
92 準備時代の五事件を問ふ、  
93 第一年時代の五事件を問ふ、  
94 第二年時代の五事件を問ふ、  
95 第三年時代の五事件を問ふ、  
96 最後の五ヶ月の五事件を問ふ、  
97 最後の週間の五事件を問ふ、

- 98 四十日間の五事件を問ふ。
- 99 基督の生涯の三十五事件を順序を追ふて云へ。
- 110 基督の生れし市は何か？
- 101 基督が嬰兒の際何國に遁れしか及其理由を問ふ。
- 102 埃及よりの歸國後主は何處に住ひしか？
- 103 主に洗禮を與へしは誰か？
- 104 何處にて主は洗禮を受けしか？
- 105 主が洗禮を受けしとき天より如何なる聲聞へしか？
- 106 主の第一の奇蹟は何處にて爲されしか？
- 107 幾度主は宮潔めを爲せしや？
- 108 主が初めて記録せられたる論議を爲せしは誰か？
- 109 主の第一年時代は一名何と稱ふるか？
- 110 主の生涯に最關係多き湖名を問ふ。
- 111 山上の垂訓を最も長く書きし福音書記者は誰か？(馬太)

- 112 主が寡婦の獨子を應せしは何市の附近なるか？
- 113 主がヤイロの娘を甦せしは何市なるか？
- 114 主の第二年時代は一名何と稱ふるか？
- 115 凡ての福音書記者に依りて書かれたる大奇蹟は何か？
- 116 ペテロの告白とは何か？
- 117 ペテロの告白き何書にあるか？
- 118 主の變貌の際神の云ひ給ひし言を問ふ。
- 119 善きサマリヤ人の譬喩を書きし一福音記者は誰か？
- 120 主の第三年時代は一名何と稱ふるか？
- 121 主を見んとて樹に攀ち登りし人は誰か？
- 122 主がエルサレムに凱旋入城せしは何時か？
- 123 記憶すべき二層樓は何市にあるか？
- 124 二層樓に於て制定されたる教會の儀式は何なるか？
- 125 次の事件は主の生涯の何時代に屬するか？

一、第一の宮潔め、二、ニコデモの論義、三、受洗、四、山上の垂訓、五、寡婦の獨子の甦生、六、五千人を養ふ七、ヤイロの娘の甦生、九、マリヤよりの受膏、九、十人の處女の譬喩、十、變貌、十一、善きサマリヤ人の譬喩、十二、昇天、十三、聖晩餐式の制定、十四、サマリヤ婦人との會話

- 126 主以外新約歴史中に於ける六大人物を誰とするか？
- 127 主の住ひたりし三市の名を問ふ、
- 128 主は誰に葬られしや？
- 129 主の葬儀を助けし有名なる人は誰か？
- 130 諸教會の初めの二時代を問ふ、
- 131 教會は何時起りしか(一八二)
- 132 異邦人に教會の起りしは何時か？
- 133 殉死せし弟子は誰なるか？
- 134 初代教會に於ける二偽善者の名を問ふ、
- 135 エルサレムの教會に關係せる五事件を問ふ

- 136 初代教會の擴張に與つて方ありし三人の名を問ふ、
- 137 パウロの生涯の六時代を問ふ、
- 138 パウロの生れし市名を報ふ、
- 139 パウロが幼かりし時何といふ市に行きしか(エルサレム)
- 140 エルサレムに於ける彼の教師は誰か？
- 141 基督教徒最初の教者は誰か？
- 142 ステパノの死に立會を爲せし有名なる青年は誰か？
- 143 パウロの悔改が記されたる聖書中の三ヶ所は何部分なるか？
- 144 パウロは何國傳道旅行を爲せしか？
- 145 パウロの旅行同伴者三名を問ふ、
- 146 パウロが「信仰の子」と呼びしは誰の事なるか？
- 147 パウロが幽せられし二市の名を問ふ、
- 148 何といふ人の管轄時代にパウロは死せしか？
- 149 聖書歴史は三時期を問ふ、



- 150 次の時期の時代を問ふ、
  - 一、父祖、二、ユダヤ人、三、基督教徒、
- 151 父祖時期に於ける禮拜制度は何か？
- 152 ユダヤ人時期に於ける三種の禮拜制度は何々か？
- 153 基督教徒時期に於ける禮拜制度は何か？

第五篇 聖書地理

- 154 聖書地理に於ける三個の川を問ふ、
- 155 次の川の位置を問ふ、
  - 一、ナイル、二、ユフラテ、三、ヨルダン
- 156 ナイル川は何海に注ぐか？
- 157 ユフラテ川は何海に注ぐか？
- 158 ヨルダン川は何湖に注ぐか？
- 159 ヨルダン川は何海に入るか？

- 160 イスラエル人がエヂプトより逃るゝとき何海を渡りしか？
- 161 聖書地理に於ける五個の山を問ふ、
- 162 次の山の位置を問ふ、
  - (一)シナイ、(二)ネボ、(三)カルメル、(四)ヘルモン、(五)橄欖
- 163 パ行の音にて初まる都會三個を挙げよ、
- 164 次の三市の位置を問ふ、
  - (一)バベル、(二)ベテレヘム、(三)ベタニヤ、
- 165 カ行の音にて初まる都會三個を挙げよ、
- 166 次の三市の位置を問ふ、
  - (一)カナ、(二)カペナウシ、(三)コリント、
- 167 ヤ行の音にて初まる都會三個を挙げよ、
- 186 次の三市の位置を問ふ、
  - (一)エルサレム、(二)エリコ、(三)ヨツバ、
- 169 タ行の音にて初まる都會三個を挙げよ、

- 170 次の三市の位置を問ふ、  
(一) ツル、(二) タルレ、(三) トロアス、
- 171 アジアに於ける聖書地理に關係ある二地方を挙げよ、
- 172 歐洲に於ける聖書地理に關係ある二地方を挙げよ、
- 173 アフリカに於ける聖書地理に關係ある二地方を挙げよ、
- 174 エベンは小アジアの何國にあるか？
- 175 聖地の四種の名稱を問ふ、
- 176 次の川の附近に位する主要なる都會を問ふ、  
(一) ナイル、(二) エフラテ、(三) ヨルダン、(四) テクリス
- 177 主の歩みし湖は何といふか？
- 178 主の變貌爲し給ひし山は何といふか？
- 179 神殿のありし山は何といふか？
- 180 主の昇天し給ひし山は何といふか？
- 181 皮匠シモンの住ひし市の名を問ふ、

- 182 モーセがカナンに十二人の間諜を送りし地は何といふか？
- 183 基督時代に於けるパレスチンの政治的 five 區分を問ふ、
- 184 パレスチンの自然的 five 區分を問ふ、

第六篇 舊約制度の研究

- 185 舊約の四大禮拜制度を問ふ、
- 186 祭壇の目的は何か？
- 187 幕屋の三部分を問ふ、
- 188 庭には何を置けるや？
- 189 聖所には何を置けるや？
- 190 至聖所には何を置けるや？
- 191 次の者の象徴的意義を問ふ、

- 一、庭、二、聖所、三、至聖所、四、燔祭の壇、五、洗盤、六、金の燭臺、七、供前のパンの案、八、香壇、

- 192 五種の禮物とは何々なるか？
- 193 右の禮物の意義を問ふ、
- 194 最初の神殿は誰が造りしか？
- 195 ソロモンの神殿は何時破壊せられしか？
- 196 ソロモンの神殿を再建せしものは誰か？
- 197 ゼルバベルの神殿は如何に成りしか？
- 198 ゼルバベルの神殿を再建せしものは誰か？
- 199 基督時代にありしは何神殿なりしか？
- 200 次の事件は舊約歴史の何時代に属するか？  
(一)第一神殿の建立(二)第二神殿の建立(三)第三神殿の建立
- 201 神殿の六区分を問ふ、
- 202 何處の囚虜の際に會堂が起りしか？
- 203 會堂の起源に關係せる人は誰か？
- 204 會堂が世界の基督を迎ふる準備を助けし二つの方法あり如何、

- 205 エダヤ人の三大節筵を問ふ、
- 206 逾越節は何を記念せるか？
- 207 五旬節は何を記念せるか？
- 208 結茅節は何を記念せるか？
- 209 エダヤ人の三小節を問ふ、
- 210 エダヤ法律によりて制定せられたる唯一の斷食日は何なるか？
- 211 斷食節には如何なる祭事が行はれしか？

### 第七篇 日曜學校

- 212 近世日曜學校の創立者は誰か？何時か？
- 213 萬國日曜學課は何時創始されしか？
- 214 最も良く組織されたる日曜學校の七分科とは何ぞや？
- 215 年々北米には凡そ何個の日曜學校大會開かるゝや？
- 216 萬國日曜學校協會は何時教育養成監督を選擧せしや？

- 217 日曜學校の定義を問ふ、
- 218 日曜學校と教會に於ける他の凡ての機關との關係を問ふ、
- 219 教會が日曜學校を必要とする四理由を挙げよ、
- 220 家庭科には如何なる種類の人が屬すべきか？
- 221 家庭科の三利益を挙げよ、
- 222 階級制度とは何ぞや、
- 223 階級制度の七要素をあげよ、
- 224 階級制度日曜學校の一大價值とは何ぞや、
- 225 補充學課に於て最も必要なる四個の教材は何なるか
- 226 補充學校は分級に如何なる用をなすや

### 第八篇 教師と其事業

- 227 教師の最上、最要の資格とは何ぞや
- 228 教師が信者たるべき二個の要件は何々か？

- 229 教師が生徒たるべき二個の要件は何か？
- 230 教師が友たるべき三個の要件は何か？
- 231 教師自身の準備に關する三要素とは何か？
- 232 學課の準備に關する三階梯を問ふ、
- 233 各學課に見出さるべき七要素を問ふ、
- 234 如何にせば家庭研究を爲さしめ得べきや、
- 235 教授に於ける原理と方法との別を問ふ、
- 236 教授の六原理をあげよ、
- 237 生徒の周圍にある日常の七感化をあげよ、
- 238 教授に於ける形式的五段階をあげよ、
- 239 試験は如何なる心の法則を基礎となすや？
- 240 試験と教授との區別を問ふ、
- 241 二個の觀念聯合律をあげよ、
- 242 概念の定義を問ふ、

- 243 應用の目的を問ふ、
- 244 教師の知るべき三エム(Ⅲ)とは何ぞや？
- 245 注意とは何ぞや？
- 246 注意を引く五方法を問ふ、
- 247 感覺とは何ぞや？
- 248 知覺とは何ぞや？
- 249 統覺とは何ぞや？
- 250 五官とは何ぞや？
- 251 記憶とは何ぞや？
- 252 想像とは何ぞや？
- 253 感情とは何ぞや？
- 254 意志とは何ぞや？
- 255 習慣とは何ぞや？
- 256 教授法に於て普通の二區分を問ふ、

- 257 所謂「質問法」とは何ぞや？
- 258 注意して爲すべき質問の三種類を問ふ、
- 259 爲すべき質問の五種類を問ふ、
- 260 質問の五用途を問ふ、
- 261 爲すべからざる質問の三種類を問ふ、
- 262 説明の基礎とする教授の法則を問ふ、
- 263 説明の二種類を挙げよ、
- 264 善き説明の三特性をあげよ、
- 265 説明の四個の用法を云へ、
- 266 説明を見出し得べき三方法を問ふ、
- 267 説明に關する最良の書は何なるか？

### 第九篇 生徒

- 268 人生の七時代と其大體の年齢とを示せ、

- 269 児童研究の四方法を問ふ、
- 270 児童の四特性をあげよ、
- 271 性質によれる二種類とはなにか？
- 272 幼稚生の五特性をあげよ、
- 273 幼稚科に必要な五設備を問ふ、
- 274 初等科生の五特性をあげよ、
- 275 初等科教師の最も利用する二覚官は何々なるか？
- 276 初等科に必要な五設備を問ふ、
- 277 少年の五特性を問ふ、
- 278 少年科に必要な五設備を問ふ、
- 279 手工とは何ぞや
- 280 青年の定義を問ふ、
- 281 中年の五特性を問ふ、
- 282 中年科に必要な五設備を問ふ、

- 283 成人科の自然的二区分を問ふ、
- 284 青年の五特性を問ふ、
- 285 成人の五特性を問ふ、
- 286 青年科に必要な設備を問ふ、
- 287 成人科に必要な設備を問ふ、
- 288 構成的學課の定義如何？

練習問題答案

答案は凡て記憶に便にせん爲簡單にせり、悉しき答は各學課に於て之を爲し得べし。

第一篇 聖書と其區分

- 1 書
- 2 (一)神の言語、(二)聖書、
- 3 舊約全書、新約全書、

- 4, 三十九,
- 5, 二十七,
- 6, 六十六,
- 7, 律法, 歷史, 敬虔, 大預言, 小預言,
- 8, 律法, 五卷, 歷史, 十二卷, 敬虔, 五卷, 大預言, 五卷, 小預言, 十二卷,
- 9, 創世, 出埃及, 利未, 民數記, 申命,
- 10, 約書亞, 士師, 路得, 撒母耳前書, 同後書, 列王記, 路上同下, 歷代志, 路上同下, 以士喇, 尼希米亞, 以士帖,
- 11, 約百, 詩篇, 箴言, 傳道, 雅歌,
- 12, 以賽亞, 耶利米亞, 哀歌, 以西結, 但以理,
- 13, 何西阿, 約耳, 亞摩士, 阿巴底亞, 約拿, 米迦, 拿翁, 哈巴谷, 西番雅, 哈基, 撒加利亞, 馬拉基,
- 14, 傳記, 歷史, 特別書翰, 一般書翰, 預言,
- 15, 傳記, 四卷, 歷史, 一卷, 特書, 十四卷, 一般書, 七卷, 預言, 一卷,
- 16, 馬太, 馬可, 路加, 約翰,

17, 使徒行傳,

18, 羅馬, 哥林多前書, 同後書, 加拉太, 以弗所, 腓立比, 哥羅西, 帖撒路尼迦前書, 同後書, 提摩太前書, 同後書, 提多, 腓利門, 希伯來,

19, 雅各, 彼得前書, 同後書, 約翰第一書, 同第二書, 同第三書, 猶太,

20, 約翰默示錄,

21, 馬太傳,

22, 馬可傳,

23, 路加傳, 使徒行傳,

24, 約翰傳, 約翰第一書, 第二書, 第三書, 默示錄,

25, パウロ,

26, (一)彼得前書, 同後書, (二)雅各書, (三)猶太書,

27, 馬太, 馬可, 路加,

28, 馬太, 約翰,

第二篇 實證に関する學課

29、(一)必要に應ず、(二)驚くべき一致、(三)凡ての書に卓越、(四)感化力の偉大、(五)受納者の性格、(六)救の道を示す、(七)人力のみにては造る能はざる書、(八)聖者と成りし者は益々愛撫す。

30、(一)聖書は宣言す、(二)預言に應ふ、(三)凡ての人に卓越す、(四)何人も罪ありと爲さず、(五)彼の時代に於て人に與へたる印象、(六)敵も彼の主張を是認す、(七)世に及ぼせし彼の教訓と生涯との結果、(八)甦りたる救世主。

第三篇 舊約歴史

31、アダム、ノア、アブラハム、ヨセフ、モーセ、ヨシユア、ギデオン、サムエル、サウル、ダビデ、ソロモン、エリヤ、イサヤ、エレミヤ、ダニエル、オヘミヤ、

32、カイン、

33、アベル、

34、セム、ハム、ヤベテ、

35、ロトはアブラハムの甥なりき、

39、ルベン、シメオン、レビ、ユダ、イツサカル、ゼブルン、

37、ヨセフ、ベニヤミン、

38、ダン、ナフタル、

39、ガド、アセル、

40、エデブト、

41、ネボ、

42、ヨシユア、

43、土師時代、

44、サムソン、

45、デボラ、

46、サムエル、

47、十五、



- 48、サウル、
- 49、サムエル、
- 50、ダビデ、
- 51、サムエル、
- 52、ソロモン、
- 53、ソロモン、
- 54、イスラエル、
- 55、ヤラベヤム、
- 59、エダ、
- 57、ラハベヤム、
- 58、試練、準備、征服、權力、傾勢、隸屬、
- 59、創造より大洪水まで、
- 60、大洪水より出埃及まで、
- 61、出埃及よりサウルの即位まで、

- 62、サウルの即位より王國の分裂まで、
- 63、王國の分裂よりバベル虜囚まで、
- 64、バベル虜囚より基督まで、
- 65、四年、
- 66、墮落、贖罪の約束、大洪水、
- 67、散亂、祖先旅行、埃及の經驗、
- 68、野の經驗、カナン征服、師士、
- 69、サウル敗軍、樞遷さる、
- 70、分裂、哀類、
- 71、カルデヤ、ベルシヤ、ギリシヤ統治、マカベアスの自由、ロマ統治、
- 72、アダム、ノア、
- 73、アブラハム、ヨセフ、
- 74、モーセ、ヨシヤ、ギデオン、サムエル、
- 75、サウル、ダビデ、ソロモン、

- 76、エリヤ、イザヤ、エレミヤ、
- 77、ダニ、エル、ネヘミヤ、ゼガリヤ、エズラ、マラキ、
- 78、(一)紀元前七二一年、(二)同五八七年、(三)同五三六年、
- 79、モーセ、
- 80、ヨシュア、
- 81、デボラ、ギデオン、サムソン、サムエル、
- 82、紀元前七二一年サマリヤの陥落の時、
- 83、イサヤ、
- 84、エレミヤ、
- 85、クロス、
- 86、ギリシヤ、
- 87、エダ、マカベヤス、
- 88、ロマ、
- 89、同人物なり、

第四篇 新約歴史

- 90、(一)基督の生涯、(二)教會の初め、(三)パツロの生涯、
- 91、(一)準備、(二)第一年、(三)第二年、(四)第三年、(五)最後の三ヶ月、(六)最後の週間、(七)四十日間、
- 92、降誕、避難、歸國、バプテスマ、誘惑、
- 93、第一奇蹟、第一宮潔、ニコデモ、サマリヤの婦人、貴人の子、
- 94、漁夫の召、山上の垂訓、羨の子、湖邊の譬喩、ヤイロの娘、
- 95、五千人を養ふ、サイロピニケの娘、彼得告白、變貌、善きサマリヤ人、
- 96、ラザロ、嬰兒、富める若き宰、十人の癩病人、ザーカイ、
- 97、マリヤ膏を沃ぐ、凱旋入城、十人の處女、二層樓、磔刑、
- 98、二人に現はる、十人に現はる、七人に現はる、五百人に現はる、十一人に現はる、
- 99、九十二—九十八の答を見よ、
- 100、ベテ—ヘム、

- 101 彼を殺さんと欲せしヘロデの手より逃れん爲にエヂプトに行けり。
- 102 ナザレ、
- 103 バプテスマのヨハネ、
- 104 ヨルダン、
- 105 此は我心に適ふわが愛子なり」
- 106 カナ、
- 107 二度
- 208 ニコデモ、
- 209 「不明の年」
- 210 ガリラヤ、
- 211 ナイン、
- 212 カペナウン、
- 213 「聲名の年」
- 214 五千人を養ふ、

- 116 「爾は基督活神の子なり」
- 117 馬太一六〇一六、
- 118 「此は我旨に適ふわが愛子なり、爾曹これに聴くべし。」
- 119 路加、
- 120 「反抗の年」
- 121 ザアカイ、
- 122 日曜日、
- 123 エルサレム、
- 124 晚餐、
- 125 (一)第一年(二)同上(三)準備(四)第二年(五)第二年(六)第三年(七)第二年(八)最後の週間(九)同上(十)第三年(十一)同上(十二)四十日(十三)最後の週間(十四)第一年、
- 126 之に對する答は多様なるべし、就中最要なるは、バプテスマのヨハネ、ルカ、ヨハネ、ペテロ、パウロ、及ステパノなり。
- 127 ナザレ、カペナウン、ベタニヤ、

- 128 アリマタヤのヨセス、
- 129 ニエデモ(約一九〇三八—四三)
- 130 (一)エルサレムの教會、(二)エルサレム以外の教會
- 131 復活後ペンテコステの日、
- 132 コルネリオ、
- 133 ヨハネ以外の全部、
- 134 アナニヤ及サッピラ、
- 135 (一)ペンテコステ、(二)迫害、(三)偽善者、(四)執事、(五)ステパノ、
- 136 ビリボ、ベテロ、パウロ、
- 137 (一)學生、(二)迫害者、(三)悔改者、(四)傳道者、(五)著者、(六)囚人、
- 138 タルソ、
- 139 エルサレム、
- 140 ガマリエル、
- 141 ステパノ、

- 142 パウロ、
- 143 使徒行傳九、二二、二六、
- 144 三回、
- 145 バルナバ、シラス、ルカ、
- 146 テモテ、
- 147 カイザリヤ、ロマ、
- 148 ネロ、
- 149 父祖、ユダヤ人、基督教徒、
- 150 (一)アダム、モーセ、(二)モーセ、基督、(三)基督—現代、
- 151 祭壇、
- 152 幕屋、神殿、會堂、
- 153 教會、

第五篇 聖書地理

- 154 ナイル、ユフラテ、ヨルダン、
- 155 (一)エヂプト、(二)アジヤの西部、パレスチアの東部(三)パレスチン、
- 156 地中海、
- 157 ヘルシヤ灣、
- 158 ガリラヤ湖、
- 159 死海、
- 160 紅海、
- 161 シナイ、ネボ、カルメル、ヘルモン、橄欖、
- 162 (一)曠野、(二)死海の北端に近き所、ヨルダン河の東方、(三)地中海附近、ガリラヤ湖の  
正西、(四)ヨルダンの水源地、ガリラヤ湖より約四哩の所、(五)ユダヤにてエルサレム  
の附近、
- 163 バベル、ベテレヘム、ベタニヤ、
- 164 (一)カルデヤ、(二)ユダヤ、(三)ユダヤ、
- 165 カナ、カペナウシ、ユリント、

- 166 (一)ガリラヤ、(二)ガリラヤ、(三)ギリシヤ、
- 167 エルサレム、エリコ、ヨッパ、
- 168 (一)ユダヤ、(二)ユダヤ、(三)ユダヤ、
- 169 ツロ、タルソ、トロアス、
- 170 (一)ペニケ、(二)キリキヤ、(三)ムシヤ、
- 171 (一)パレスチン、(二)小アジア、
- 172 (一)マケドニア、(二)イタリヤ等、
- 173 エヂプト、
- 174 リヂア、
- 175 (一)カナン、(二)イスラエル、(三)エダヤ、(四)パレスチン、
- 176 (一)メンビス、(二)バベル、(三)エリコ、(四)ニネベ、
- 177 ガリラヤ、
- 178 ヘルモン、
- 179 モリヤ、

- 180 橄欖山
- 181 ヨッバ
- 182 カデン、バルネア
- 183 (一)エダヤ、(二)サマリヤ、(三)ガリラヤ、(四)ペレア、(五)バシヤン
- 184 (一)海岸平野、(二)山麓地方、(三)山里地方、(四)ヨルダンの谷、(五)東方の高地

第六篇 舊約制度の研究

- 185 祭壇幕屋、神殿、會堂
- 186 祭壇は神と人との相會し、及び罪の犠牲を捧ぐる場所
- 187 庭、聖所、至聖所
- 188 燔祭の壇、洗盤
- 189 金の燭台、供前のパンの案、吾壇
- 190 契約の櫃
- 191 (一)世界、(二)教會、(三)天國、(四)基督の犠牲、(五)洗禮、(六)聖書、(七)晚餐、(八)祈禱

- 192 罪？ 愆、素酬恩祭
- 193 罪—和ぎ？—贖罪、愆—赦罪、素—感謝、酬恩—交通
- 194 ソロモン
- 195 紀元前五八七
- 196 ゼルバベル
- 197 廢頽せり
- 198 ヘロデ大王
- 199 ヘロデの神殿
- 200 (一)權力、(二)？、屬、(三)ヘロデの神殿は？ 屬時代に始まりしか、主の來？ し後まで落成せざりき
- 201 (一)異邦人の庭、(二)聖園、(三)婦人の庭、(四)イスラエルの庭、(五)祭司の庭、(六)主殿
- 202 バベル
- 203 エズラ
- 204 地と人とを供給せり

- 205 逾越節五旬節結茅節
- 206 死の使の逾越せしこととエヂプトより出でし事とを紀念す。
- 207 シナイ山に於て律法を興へられたる事を紀念す。
- 208 荒野に於ける生活を紀念す。
- 209 喇叭節修殿節、ブリンム節
- 210 贖の日
- 211 祭司の長は至聖所に入り、契約の櫃の上なる贖罪所の上に犠牲の血を注ぐ。

### 第七篇 日曜學校

- 212 一七八〇年にロバート、レーキス、
- 213 一八七三、
- 214 搖籃、幼稚、初等、少年、中年、成人、家庭科、
- 215 一五〇〇、
- 216 一九〇三年にダブル、ル、シー、ベアース、

- 217 日曜學校は教會の教育事業にして、人を基督に導き、且基督の爲めに働かしむべく訓練する所なり。
- 218 日曜學校は教會の凡ての機關の働くべき基礎を作る。
- 219 (一)教育部、(二)働く場所、(三)聖書教師を進歩せしむる場所、(四)傳道機關、
- 220 一定の日曜學校に出席せざる人及搖籃科の人、
- 221 (一)聖書研究の増加、(二)家庭宗教の發達、(三)日曜學校出席者の増加、
- 222 階級的日曜學校は聖書を生徒の年に應じ、時代に應じて適當に注入するにあり
- 223 (一)分科及分級、(二)構成されたる分科、(三)登録書記、(四)教師の適選、(五)學課の適應
- (六)補充學課、(七)規定の進級日、
- 224 教授を確定せしむ。
- 225 (一)程度に應じたる暗誦句、(二)聖書の書冊及區分、(三)新舊歴史の綱領、(四)聖書地理
- の綱領、
- 226 補充學課は大體に於て進級卒業の基礎たる用を爲す。

第八篇 教師と其事業

- 227 基督信者。
- 228 (一)目的とするもの、(二)實行するもの。
- 229 (一)喜んで教を受くるもの、(二)全備なるべし。
- 230 (一)同情あるもの、(二)犠牲を爲すもの、(三)役ふるもの。
- 231 (一)祈禱、(二)研究、(三)會話。
- 232 (一)事實、(二)事實を已に適用す、(三)事實を生徒に適用す。
- 233 場所、人物、時日、事蹟、困難、教理、本分。
- 234 割與へよ、期待せよ、尋ねよ、勧めよ、用ゐよ。
- 235 原理は總ての事業の基礎にして、方法は原理に基づきて成りたる計劃なり。
- 236 (一)新らしきものを古きものに結び付く、(二)生徒と教師とが同じ意味に取る言語を用ふ、(三)生徒の要求に適應する様に教ふ、(四)共働、(五)問題の發展に伴ふて絶えず感興を起すべき新らしき點を提供す、(六)觀念を生徒の心に留まらしむる爲め

に繰返すべし。

- 237 家庭、學校、市街、讀書、遊戲、朋友、職業。
- 238 (一)試驗、(二)教授、(三)觀念聯合、(四)概念構成、(五)應用。
- 239 心は既知類似の觀念を通じてのみ新らしき智識を受く
- 240 試験は基礎を置く事にして、教授は其上に建築する事なり。
- 241 (一)比較、(二)對照。
- 242 概念とは研究せる多くの事實より推論せる廣義なる叙述なり。
- 243 言語を活動に移す。
- 244 實質、心、方法。
- 245 集中されたる意識。
- 246 (一)接觸、(二)好奇心、(三)具體的、(四)共働、(五)傳染。
- 247 或る外部の刺激が心に與ふる印象。
- 248 感覺を認むる事。
- 249 新らしきものを既に知れる詞に翻譯すること。



- 250 味、臭、觸、聽、視
- 251 保留し、回想し、認識する心の力、
- 252 書を作る心の力、
- 253 快き或は苦き心状態、
- 254 心の自ら決する力、
- 255 第二の天性、
- 256 (一)講義法、(二)質問法、
- 257 ソクラテス法、
- 258 (一)修辭學的、(二)省略的、(三)然り又否、
- 259 (一)明確、(二)建設的、(三)創始的、(四)暗示的、(五)靈的、
- 260 (一)感興を惹起す、(二)記憶を助く、(三)生徒の智識を試む、(四)生徒の良心を刺激す、(五)教師の事業を試む、
- 261 (一)恐なるもの、(二)捕獲的なるもの、(三)長さ答を要するもの、
- 262 具體的より抽象的に進む事、

- 263 (一)實物的、(二)口語的、
- 264 (一)説明すべし、(二)詳細に過ぎざるもの、(三)理會し得らるべきもの、
- 265 (一)注意を誘ふ、(二)記憶を助く、(三)了解を助く、(四)生活の鏡、
- 266 (一)觀察により、(二)人の話により、(三)讀書により、
- 267 聖書、

第九篇 生徒

- 268 搖籃、幼稚、初等、少年、中年、青年、成人、(一)誕生—三才、(二)三才—六才、(三)六才—九才、(四)九才—十二才、(五)十二才—十六才、(六)十六才—約二十五才、(七)二十五才—死、
- 269 (一)兒童の外部的状態の検査、(二)吾人自らを研究して發見する所のものによりて兒童中に發見せらるべき所のものを想像、(三)兒童に關する良書、(四)兒童の性質に就いて専門的研究を爲せし人よりの教訓、
- 270 (一)不靜止的、(二)好奇心、(三)遊戯の本能、(四)話好き、
- 271 (一)發動的、(二)受動的、

- 272 (一)身體の不静止、(二)自由の想像、(三)突門的、(四)不讀書、(五)遊戯本能、
- 273 (一)離れたる室、(二)適當なる書、(三)單純なる音樂、(四)適當なる椅子、(五)適當なる學課、
- 274 (一)學校時代發端、(二)模倣、(三)確實を好む、(四)活動、(五)制限されたる用語、
- 275 (一)視覺、(二)聽覺、
- 276 (一)適當なる教室、(二)階級制、(三)適當なる椅子、(四)良好なる施行順序、(五)適當なる器具、
- 277 (一)讀書時代、(二)究問時代、(三)友情時代、(四)記憶時代、(五)習慣養成時代、
- 278 (一)聖書、(二)手工用の卓、(三)階級的補充學課、(四)適當なる書籍、(五)學課の適用、
- 279 地圖を作らしめ、或は歴史を書かしめ、或は瑣碎帖トランプを作らしむ、
- 280 青春時代は春情發動期と成熟期との間の時代の謂なり、
- 281 (一)迅速なる肉體の發達、(二)名譽心、(三)感情的なるものを好む、(四)英雄崇拜、(五)爭鬪
- 282 (一)中等科教師、(二)適當なる書物、(三)適當なる補充學課、(四)構成的學級、(五)同性の教師、
- 283 (一)青年、(二)成人、

- 284 (一)考究心、(二)家庭の本能、(三)公衆の説を氣にかく、(四)強き名譽心、(五)喜悅の生涯、
- 285 (一)愛國心、(二)回顧力、(三)清談を樂しむ、(四)博愛の嗜好、(五)遂行的能力、
- 286 (一)構成的學級、(二)適當なる宗教的感化、(三)訓練課、
- 287 (一)良教師、(二)構成的學級、(三)待期奉公團、
- 288 (一)構成的學級は一教師、級長、副級長、書記、會計及少くとも、交際、祈禱、視察の三委員とを要す、

但し是は最小のものを示したる故他の役員及び委員を置くは隨意なりとす

全 明治四十三年九月廿五日印刷  
年九月三十日發行



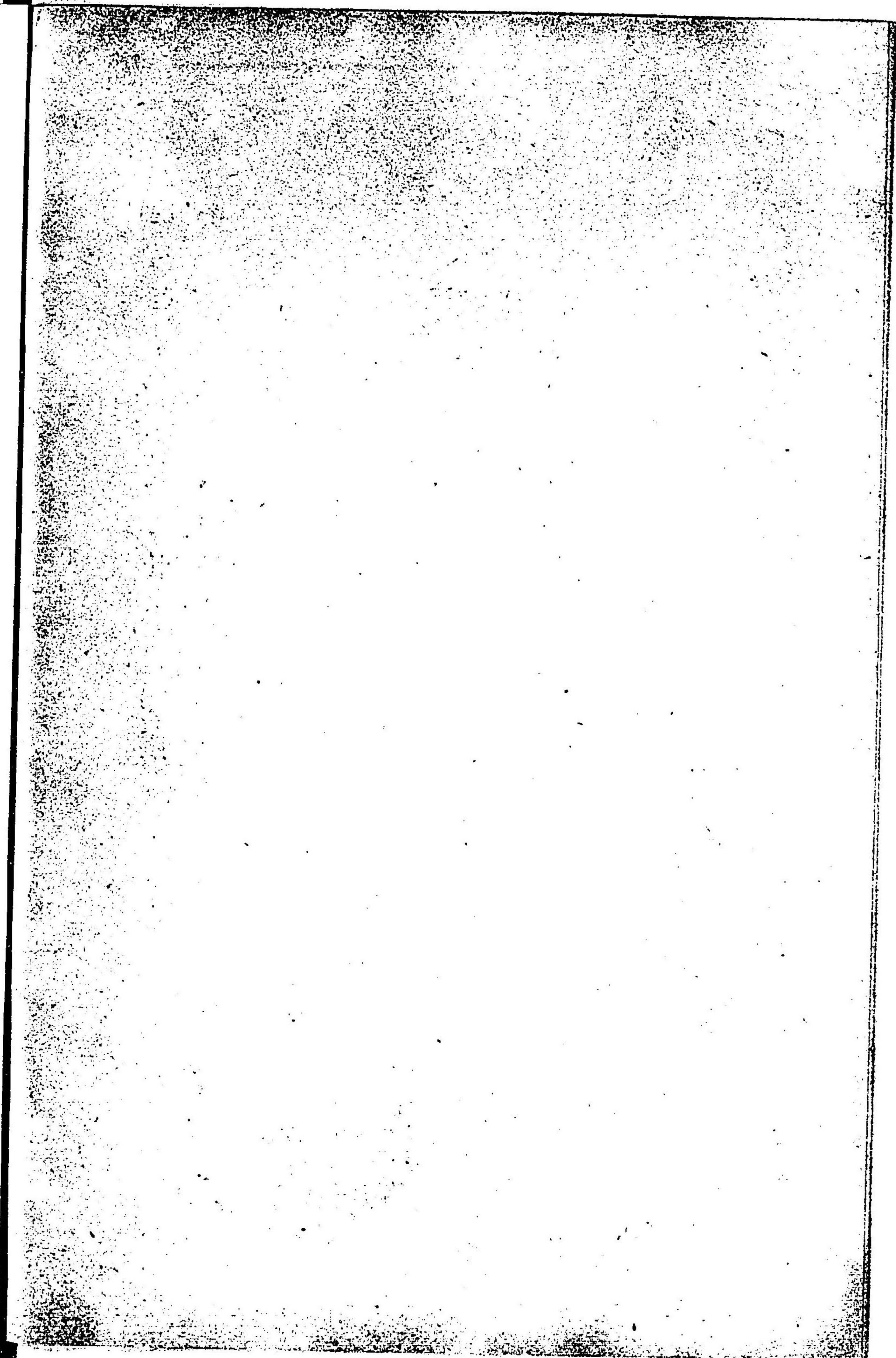
著 者 米國  
ハーバート、モーニング、

發行人 東京市四谷區仲町二丁目六番地  
ダブルユー、デュー、カンニングハム

印刷者 東京市四谷區麴町十二丁目六番地  
都 築 吉 五 郎

發行所 東京市四谷區仲町二丁目六番地  
四 谷 基 督 教 會

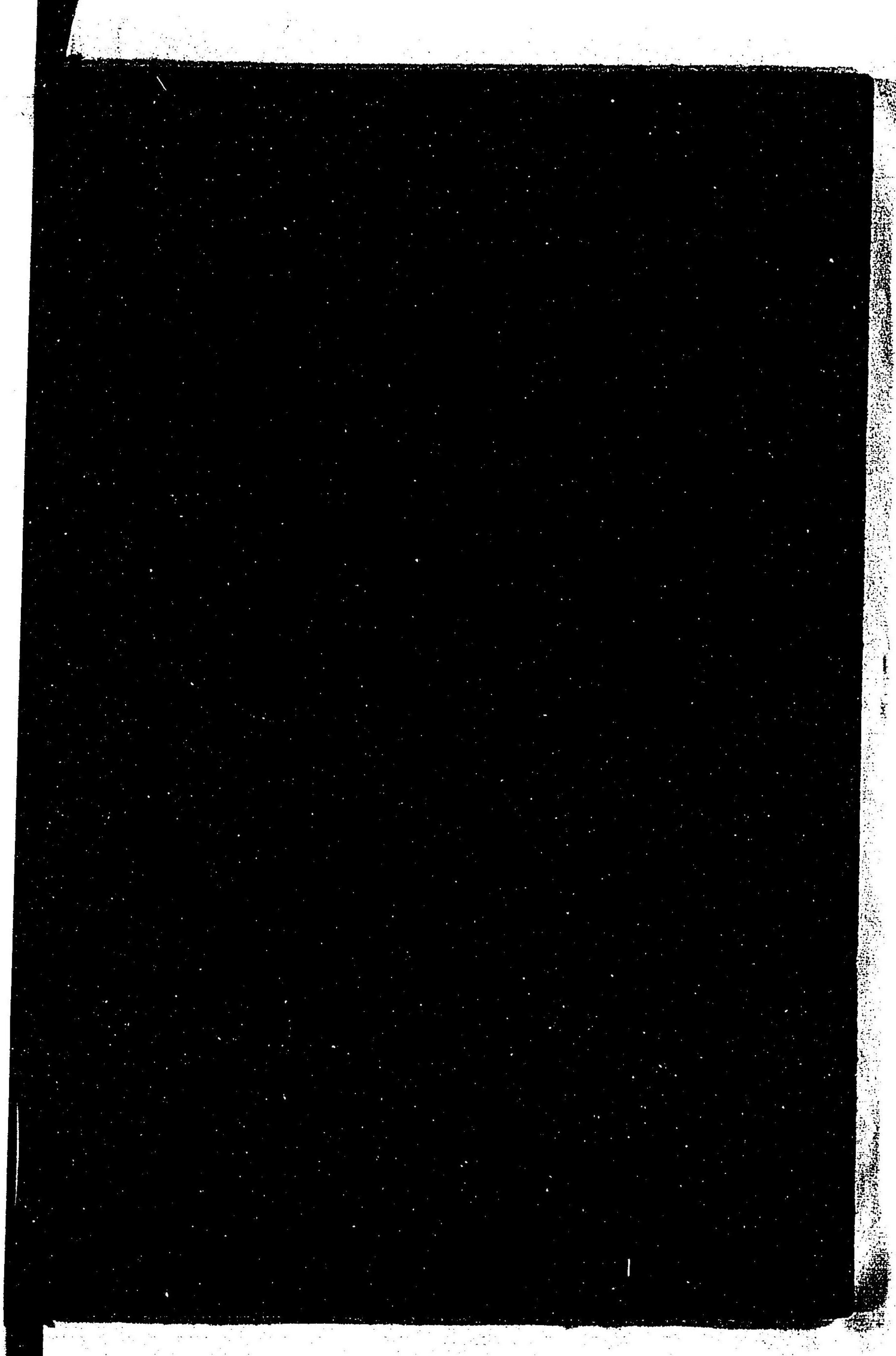
印刷所 東京市四谷區麴町十二丁目六番地  
成 進 堂



正 誤 索 引

頁數	行數	誤	正
四	十二	モーセの五徑	モーセの五巻
八	九	希魯來書	祖伯來書
三三	三	旅祖	祖族
三五	五	出來	出來事
三八	十三	ダニエル	ダニエル
四五	四	十四章	十六章
全	九	教會の初期	教會の始め
五一	一	第二左	第二年
五八	十二	使徒	使徒
六四	十一	傳道之行	傳道旅行
六九	一	父祖の時期……	父祖の時期……祭壇
八七	十三	左の	右の
八九	十四	玉埃	出埃
九三	二	洗	洗盤
一〇三	四	シガン	シワン
一一一	七	館成	養成
一二四	十一	なりまなす	なりまなすか
一二八	一〇	品性	品性に
一二九	二	進級は此法方を採小學校	進級日は此法方を採る學校
一三九	七	受納するものよりし	受納するも拒絶するも
一四二	六	教師の長を教師の心たる	教師の必を教師の長たる
一四五	六	少年軍	少年科

頁數	行數	誤	正
一四五	九	得らるべき	得らるべき
一五二	七	自の生活	(三)自の生活
一六二	一四	共働……	共働 (Co-operation)
一六三	四	傳染……	傳染 (Contagion)
一六六	一	中集活たる	中集喜たる
一七〇	十二	創始的	創始的
一八〇	五	理令	理解
一八三	八	〔十六才自十六才至二十五才至死〕	〔十六才自十六才至二十五才至死〕
一八七	一	教育	教育
二〇〇	十一	所さ	即ち
二〇九	五	人を借す	人を倒す
二一八	八	二委員	三委員
二二八	十三	〔一人の歡待を喜ぶべ〕	〔一人の歡待より六人の歡待を喜ぶべし〕
二二二	十	待期奉公園	待期奉公園
二三七	六	教者	殉教者
二四〇	二	ツル、タルン	ツロ、タルソ
二五七	十四	ベテヘム	ベテレヘム
二六五	九行	?	謎
二六五	九行	世の來?し	主の來りし
二七二	一	突門的	突門的



020406-000-8

特21-887

教務撮要(改正増補)

ハーバード・モーニングター/著

M43

ABI-0215



